

令和4年度省エネルギー促進に向けた広報事業

(次世代層向けの省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストの実施)

第4回省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト 事業成果報告書

令和5年3月

東北経済産業局

もくじ

■大会概要関係	ページ
第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 大会概要	3
大会スケジュール	4
大会テーマ	5
会場	6
ルーム振り分け	6
試合組み合わせ表（中校生の部）	7
試合組み合わせ表（高校生の部）	8
大会結果	9
■開催記録	10
会場の様子	11
主催者挨拶	12
大会説明	14
中校生の部 決勝戦	18
高校生の部 決勝戦	25
決勝戦解説・結果発表	33
省エネ政策提案賞結果発表	40
表彰式	42
閉会挨拶	47
■アンケートの集計結果	48
出場選手のアンケート集計結果	49
引率者のアンケート集計結果	53
審判員のアンケート集計結果	56
■報道	58
新聞報道記事	59

《資料集》もくじ

■大会ルール関係	ページ
政策提案型パブリック・ディベート・ルール	61
政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン	64
政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート	68
■出場校募集関係	
出場校募集要項	73
参加申込書	78
■大会広報関係	
学校関係者向け大会広報用チラシ	80
■大会のしおり	
大会のしおり	82
（別添1）政策提案シート	91
（別添2）出場及び登録メンバー届	92
（別添3）よくあるご質問への回答	93
■大会当日の配布物関係	
決勝戦投票フォーム	94
出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム	97
審判員アンケートフォーム	108

第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 大会概要

名 称	第4回政策提案型パブリック・ディベートコンテスト
日 時	令和5年1月8日（日）8：45～16：00
テーマ	「ウクライナ情勢の影響でエネルギーの価格の上昇や供給不安が起こる中、経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策を提案してください。」
会 場	オンライン開催 [大会本部] ハーネル仙台 3F「蔵王」、仙台市青葉区本町 2-12-7
主 催	経済産業省東北経済産業局 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会
協 力	特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部
後 援	青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会、河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、東奥日報社、デーリー東北新聞社、岩手日報社、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送、福島民報社、福島民友新聞社、日刊工業新聞社東北・北海道総局、NHK 仙台放送局、tbc 東北放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送
出場チーム	[中学生の部] 八戸工業大学第二高等学校附属中学校 盛岡中央高等学校附属中学校 東北学院中学校 宮城教育大学附属中学校 福島県立ふたば未来学園中学校 [高校生の部] 八戸聖ウルスラ学院高等学校 岩手県立岩泉高等学校 古川学園高等学校 東北学院高等学校 秋田県立秋田西高等学校 福島県立磐城高等学校
事務局	省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局（株式会社ピーターカンパニー）

大会スケジュール

時間	内容	
8:20	オンライン接続・受付開始	
8:45	開会式	◎主催者挨拶・諸注意
9:20	第1試合（9:00 接続開始）	◎中学生の部 ◎高校生の部
10:50	第2試合（10:40 接続開始）	◎中学生の部 第2試合
12:20	第3試合（12:10 接続開始）	◎中学生の部 第3試合 ◎高校生の部 第2試合
14:15	決勝戦（14:00 接続開始）	◎中学生の部 ◎高校生の部 ◎YouTube ライブ配信 ◎オンライン投票
15:15	結果発表・閉会式（15:05 接続開始）	◎審査結果発表・講評 ◎表彰式 ◎閉会挨拶
16:00	閉会	

第4回大会のテーマ（論題）

ウクライナ情勢の影響でエネルギーの価格の上昇や供給不安が起こる中、経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策を提案してください。

1. 値上がりするエネルギー価格と増加していくエネルギー消費量

2022年2月にロシアがウクライナへ軍事侵攻を行ったことをきっかけに、石油、LNG、石炭などのエネルギーの原料価格が値上がりしています。一方で、世界のエネルギー消費量は依然として増加傾向にあり、石油換算で1965年の37億トンから年平均2.3%で増加し続け、2020年には133億トンに達しました。各国では、エネルギー確保のため、産油国への増産要請や備蓄の強化といった政策を展開しています。

2. 日本の状況と省エネルギー政策

日本は、エネルギー原料の産出に乏しく、エネルギー自給率は12.1%（2019年）と他の主要国と比べても低く、産油国など海外の影響を受けやすい国となっています。過去の例では、1970年代に起こったオイルショックです。この時、石油の供給が止まるのではないかとこの恐れから、日本中が大混乱に陥りました。そして現在では、ウクライナ侵攻によるエネルギー問題に直面しています。

しかし、日本はオイルショックの経験から、貴重なエネルギーを大切に使うため、省エネに努めてきました。オイルショックをきっかけに制定された「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（通称：省エネ法）では、工場等はエネルギー消費を年1%以上減らす省エネに取り組むことなどが定められています。他にも様々な省エネ政策や取り組みの結果、日本は経済成長しながらも、世界でトップクラスの省エネを達成してきました。さらに政府は、2030年度に温室効果ガスを46%（2013年度比）削減することとし、2050年には温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量を差し引きゼロにする「カーボンニュートラル」実現を目標としています。これは容易なものではなく、更なる省エネが必要となります。

3. 経済活動や生活の質を落とさない省エネルギー政策とは

更なる省エネを進めようとしたときに「とにかくエネルギーを使わないようにしよう」とガマンするだけでは、経済活動や人の生活にもストレスがかかり、長続きできません。一方で、エネルギーの価格は上がっており、多くの企業や家庭で省エネが求められる状況でもあります。

そこで今回、「経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策」を募集します。これまでにない省エネのシステムやターゲット、これまでの政策の大胆なアレンジなど考えてみてください（政府が検討しているポイント制度を除く）。

そして背景となるデータを集めて、どれくらいのエネルギーを減らすことができるのか、ディベートしていきましょう。

会場

主催：経済産業省東北経済産業局、東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

第4回
省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト
オンラインイベント会場

The screenshot displays a grid of event components:

- 開会式会場** 8:45~9:00 (08:30より受付) - Click to enter
- 審判員 オリエンテーション** 8:20~ - Click to enter
- 組合せ表** (中学・高校共通) - Puzzle icon
- 第1・第2・第3 試合会場** - Includes Room 1 (Middle/Junior High), Room 2 (Middle/Junior High), Room 3 (Middle/Junior High), Room 4 (Middle/Junior High), and Room 5 (Middle/Junior High)
- 決勝戦会場** 14:05~ (中学生の部) 15:05 - Click to enter
- 決勝戦会場** 14:05~ (高校生の部) 15:05 - Click to enter
- 決勝戦投票** (投票時刻の後投票してください)
- 決勝戦視聴** 14:15~ (中学生の部) 14:55 - Click to watch
- 決勝戦視聴** 14:15~ (高校生の部) 14:55 - Click to watch
- 遅延・障害等 大会運営状況** - Status icon
- 結果発表** 15:15~ **閉会式会場** 16:00 - Click to enter
- 参加校用 WEBアンケート** - Click to enter
- 審判員用 WEBアンケート** - Click to enter

オンライン開催につき Cisco Webex Meeting を使用しルームを5つ開設。

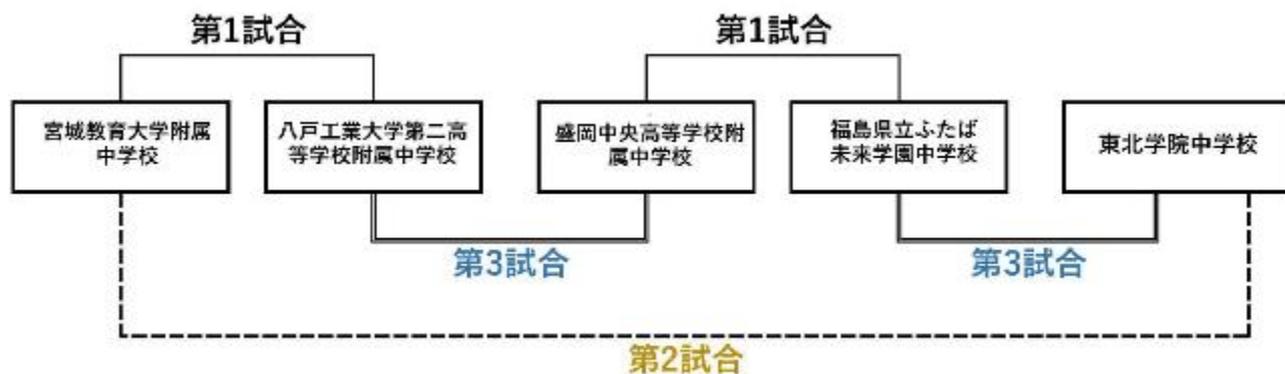
「第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストオンラインイベント会場」より試合用ルームに接続。

ルーム振り分け

ルーム 1	ルーム 2	
中学	中学	
ルーム 3	ルーム 4	ルーム 5
高校	高校	高校

試合組み合わせ表（中学生の部）

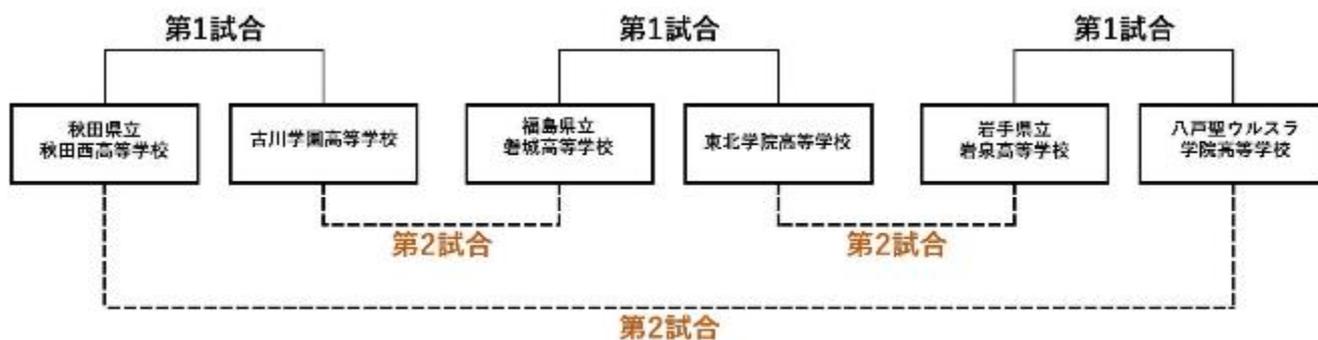
○12月11日（日）に試合組み合わせ抽選会を実施



予選		第1試合		第2試合		第3試合	
接続時間		9:00~9:10		10:40~10:45		12:10~12:15	
準備時間		9:10~9:20		10:45~10:50		12:15~12:20	
試合時間(*)		9:20~10:35		10:50~12:05		12:20~13:35	
中学生	ルーム1	宮城教育大学 附属中学校	八戸工業大 学第二高等 学校附属 中学校	宮城教育大学 附属中学校	東北学院 中学校	八戸工業大 学第二高等 学校附属中 学校	盛岡中央高 等学校附属 中学校
	ルーム2	盛岡中央高 等学校附属 中学校	福島県立 ふたば未来 学園中学校			福島県立 ふたば未来 学園中学校	東北学院 中学校

*試合時間（スピーチ 35分、予備時間 5分、判定協議 10分、講評・判定 10分・意見交換 15分）

試合組み合わせ表（高校生の部）



予選		第 1 試合		第 2 試合	
接続時間		9 : 00～9 : 10		12 : 10～12 : 15	
準備時間		9 : 10～9 : 20		12 : 15～12 : 20	
試合時間 (*)		9 : 20～10 : 35		12 : 20～13 : 35	
高校生	ルーム 3	秋田県立秋田西 高等学校	古川学園高等学 校	古川学園高等学校	福島県立磐城 高等学校
	ルーム 4	福島県立磐城 高等学校	東北学院高等学 校	東北学院高等学校	岩手県立岩泉 高等学校
	ルーム 5	岩手県立岩泉 高等学校	八戸聖ウルスラ 学院高等学校	秋田県立秋田西 高等学校	八戸聖ウルスラ 学院高等学校

*試合時間（スピーチ 35 分、予備時間 5 分、判定協議 10 分、講評・判定 10 分・意見交換 15

分)

大会結果

中学生の部 組合せ表

※左側が先攻、右側が後攻(決勝戦を除く)

試合評価点: 緑
 チーム評価点: 赤
 試合評価点+チーム評価点: 数字

優勝: 宮城教育大学附属中学校
 準優勝: 盛岡中央高等学校附属中学校
 省エネ政策提案賞: 福島県立ふたば未来学園中学校

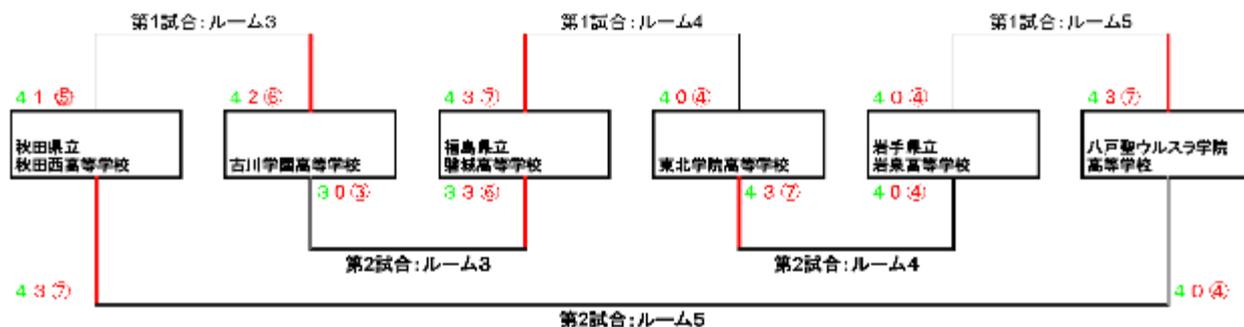


高校生の部 組合せ表

※左側が先攻、右側が後攻(決勝戦を除く)

試合評価点: 緑
 チーム評価点: 赤
 試合評価点+チーム評価点: 数字

優勝: 福島県立磐城高等学校
 準優勝: 秋田県立秋田西高等学校
 省エネ政策提案賞: 古川学園高等学校



開催記録

会場の様子

■本部会場の様子



■開会式 9:45～

●主催者挨拶



経済産業省 東北経済産業局
資源エネルギー環境部長 杉山 佳弘

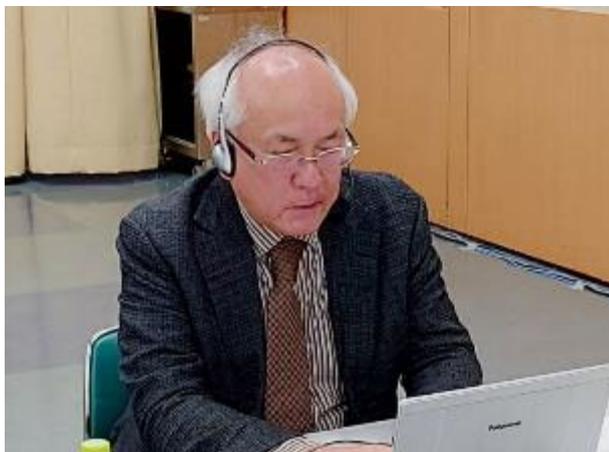
皆さんおはようございます。東北経済産業局で資源エネルギー環境部長を務めております杉山と申します。主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。令和元年度に開始した本コンテストですが、今年も中学生の部5チーム、高校生の部6チームの計11チームの参加を得て開催の運びとなりました。この日のために準備してこられた生徒の皆さん、また生徒さんのチャレンジを応援し、ご指導いただいた先生方、そしてご理解ご協力いただいた各機関の皆様にご心から御礼申し上げます。

さて皆さん、昨年は国際社会に大きな影響を与えた出来事がありました。ロシアによるウクライナ侵攻です。この戦争の影響で、文字通り世界情勢は一変しました。後世の歴史家は昨年、あるいは今年を歴史的な転換点の年として位置付けるかもしれないと思っています。

これまで西側先進国は地球温暖化問題の重要性からアフリカなどの新興国や中東の産油国に対して安価な化石燃料を使わずに高価なカーボンニュートラルエネルギーに転換するよう説得してきました。ところが、ロシアからの化石燃料供給が途絶すると、自ら世界中の化石燃料を買い漁る行為に走り、国際的な化石燃料価格の高騰を引き起こしました。新興国からすれば、身勝手とも思える西側先進国の対応を見て、今、新興国や中東の産油国は西側先進国の言うことに耳を貸さなくなってきました。このことは、昨年ニュースになったCOP27での新興国向け基金を巡る議論の紛糾やアメリカの増産要求に対するOPECの対応を見れば、皆さんにも実感していただけたことと思います。そしてさらに衝撃的だったのはアメリカと距離を置き始めたサウジアラビアが中国との間で人民元を原油取引の決済通貨に加える構想を行っているというニュースでした。もしこれが現実のものになれば皆さんが社会人になった頃の世界は、かなりの確率でドルを基軸通貨とするグループと人民元を基軸通貨とするグループに二極化されていることが予想されます。皆さんは私ども、今の大人が経験している以上に困難で複雑な国際社会情勢の中でエネルギー問題と対峙していかなければならなくなるかも知れません。そのときに何よりも重要なのは、皆さん一人一人が他人の意見に耳を傾け、そしてそれを鵜呑みにせず自分なりに調査分析を行って咀嚼し、その結果として自分なりの意見を持つとする姿勢だと思っています。

今回のディベートコンテストでの経験が、そうした皆さんの将来の糧になることを心から祈念しております。さて将来の話はさておき、さしあたり本日は悔いの残らないよう、全力を尽くして競技に集中し、そして大いに楽しんでもらいたいと思います。学生時代の良い思い出を作っただけなら幸いです。最後に皆さんの健闘をお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

●大会説明



大会実行委員長
山形大学大学院 教育実践研究科
教授 江間 史明

おはようございます。東北パブリック・ディベート実行委員会の実行委員長を務めております、山形大学の江間と申します。今回初めてこのコンテストに参加された生徒さんもおいらっしゃると思います。心から歓迎したいと思います。ぜひ、今日1日ディベートを楽しんでいただければと思っています。

それでは本日のコンテストについて簡単に説明をいたします。まず、ルールを確認させてください。政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聞き取りやすく理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームです。各チームは政策を求める問いに応じて、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論をいたします。

今回の政策を求める問いは、先ほどご説明もありましたが、ウクライナ情勢の影響でエネルギー価格の上昇や供給不安が起こる中、経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる省エネ政策とはどのようなものかを説明し提案することです。エネルギーの価格が上がっており、多くの企業や家庭で省エネが求められている状況ですが、とにかくエネルギーを使わないようにしようと我慢するだけでは経済活動や人の生活にもストレスがかかり、長続きしません。経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせるような新しい省エネ政策を皆さんから提案していただきたいと思っています。

審判への説得力を競うコミュニケーション

(1)両チームのスピーチが声量や速度、話し方に配慮して聞き手に聞き取りやすく、分かりやすいものになっていること。
ルール: 4の(2)①のア

(2)相手の主張の要点を引用しながら、かみ合ったやりとりをしようとしていること。ルール: 4の(2)②のエ

(3)聞き手(相手チーム、審判、聴衆)を強く意識しなければならない。ガイドライン: 5の(1)

→ 選手が「伝えた」と思っているだけでは不十分です。言えば伝わるわけではありません。聞き手の理解を促し、同意(共感)を得られるように努めることです。

政策提案型パブリック・ディベートとは？

- 政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聞き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームである。(ルール1目的)
- 各チームは政策を求める問いに応じて、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論する。(ルール3の(1))

本大会の「政策を求める問い」

- ウクライナ情勢の影響でエネルギーの価格の上昇や供給不安が起こる中、経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策とはどのようなものか。
- エネルギーの価格は上がっており、多くの企業や家庭で省エネが求められている状況です。
- 一方、「とにかくエネルギーを使わないようにしよう」とガマンするだけでは、経済活動や人の生活にもストレスがかかり、長続きできません。
- 「経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策」を提案してください。

最初に、ディベートというのは、「審判への説得力を競うコミュニケーションである」ということをご確認ください。聞き手に聞き取りやすくわかりやすいものになっていること。相手の主張の要点を引用しながら噛み合ったやり取りをしようとしていること。聞き手を強く意識して行うこと、になります。選手の皆さんからすると、ちゃんと自分は発言しているのに、それが審判の方に取ってもらえない、議論の中で評価してもらえない、というようなことがあると思います。どうして審判に伝わらないんだ、という思いを抱くこともあるかもしれません。

それについてですが、選手の皆さんが「伝えた」と思っているだけでは、実は不十分なのです。普段の生活でもありますが、言えば伝わるというわけでは必ずしもありません。審判に確実に届けるようなスピーチをお願いします。聞き手の理解を促し、同意もしくは共感を得られるようなコミュニケーションに努めていただければと思います。

各ステージの構成はルールにあるように、次の通りになっています。各ステージそれぞれ1名ないし2名の生徒さんにご担当いただいて試合は進行いたします。この中で大事なのは「政策についての質疑と意見交換」のステージになります。政策を提案してからがディベートの醍醐味です。ここが、かみ合った議論のやり取りが最も表れるステージです。このステージでは議論に必要な論点を増やして議論を豊かにすることを考えてください。相手の議論を否定してやり込めるということではありません。

なお、相手の議論に対して言いたいことはこの意見交換のステージで言うておいてください。次の政策の再提案のステージは議論のまとめになるので、意見交換はできません。この質疑と意見交換が、相手チームと直接のやり取りのできるステージになります。この時間で、まず相手の重要な論点とその根拠を確認してください。

例えば、省エネ効果について、「その政策で削減できるCO₂はどのくらいですか。」「年間約30トンです。」「どうやって30トン削減するのですか。」「このように、政策で大事なことは、その論点が重要かどうかという意識を持ち、丁寧に、まず相手の言い分を聞いてください。

そうすると相手のチームから、例えば、次のような政策の説明があります。

「私達の政策ではペットボトルのラベルレスを義務化することで年間約30トンのCO₂を削減できると試算しておりま

各ステージの構成 (35分、各ステージは1～2名で担当)

- ・ステージ1 先攻チームによる政策提案 4分間
- ・後攻チームのための準備時間 2分間
- ・ステージ2 先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 5分間
- ・ステージ3 後攻チームによる政策提案 4分間
- ・先攻チームのための準備時間 2分間
- ・ステージ4 後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 5分間
- ・準備時間 5分間
- ・ステージ5 後攻チームによる論点明示と政策の再提案 4分間
- ・ステージ6 先攻チームによる論点明示と政策の再提案 4分間

政策についての質疑と意見交換

- ・政策を提案してからが、ディベートの醍醐味。
- ・かみあった議論のやり取りが、最も表れるステージ。
⇒ 議論に必要な論点を増やして、議論を豊かにする。
相手の議論を否定して、やりこめるものではありません。

※相手の議論に対して言いたいことは、この意見交換のステージで言うておくこと。次の「政策の再提案」のステージは、議論のまとめになるので、意見交換はできません。

質疑と意見交換を有効活用

相手チームと直接やり取りできるのは、質疑と意見交換の時間だけです。この時間で、相手の重要な論点とその根拠を確認しましょう。

大事なことは「その論点が重要かどうか」という意識をもつこと。相手が「私達の政策で削減できるCO₂はどのくらいですか。」「年間約30トンです。」「どうやって30トン削減するのですか。」「このように、政策で大事なことは、その論点が重要かどうかという意識を持ち、丁寧に、まず相手の言い分を聞いてください。」

量と質を考える

相手チームの議論を理解するときに便利なのは「量と質」の考え方です。「量」とは例えば削減効果やコスト、「質」は機会や価値観。

この考え方をもち、再提案後の政策の優位性を主張しやすくなります。

に対面の試合以上に適切なスピードで明瞭にスピーチするようにお願いします。二つ目です。通信トラブルで相手チームのスピーチが聞こえない場合、担当教員の方がミュートを解除し、「聞こえませんか」と声をかけてください。生徒さんはカメラに手をクロスして、バツテンを示してください。通信トラブルからの回復に各試合5分間の予備時間があります。慌てないで対応するようにしてください。三つ目です。通信トラブルが改善せず、大会運営に支障が生じる場合には、大会本部で協議の上、抽選等により勝敗を決定する場合があります。以上になります。

それでは今日1日、ぜひディベートを楽しんでいただければと思います。よろしくお願いします。

オンラインの試合での留意点

(1)審判と相手チームに伝わるように、対面の試合以上に、適切なスピードで明瞭にスピーチするようにお願いします。

(2)通信トラブルで相手チームのスピーチが聞こえない場合
担当教員が、ミュートを解除し、「聞こえませんか」と声をかけてください。生徒さんは、カメラに手をクロスして×(バツテン)を示してください。回復に各試合5分間の予備時間があります。

(3)通信トラブルが改善せず、大会運営に支障が生じる場合には、大会本部で協議の上、抽選等により勝敗を決定する場合があります。

●中学生の部 決勝戦 14:15～



《先攻チーム》盛岡中央高等学校附属中学校
《後攻チーム》宮城教育大学附属中学校

ステージ①／先攻チームによる政策提案《先攻／盛岡中央高等学校附属中学校》（4分間）

盛岡中央高等学校附属中学校さん 先攻チームとして、政策提案を行います。よろしくお願いいたします。第1に、政策を求める問いを受けて、取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。日本のエネルギー消費に関して、家庭部門は、1973年度から2018年度までの間に約2倍に増加しており、CO₂の排出の多くが、電気の使用に起因しているといわれています。そして、令和2年度の世帯あたりの年間CO₂排出量は、2.91トンとなりました。また、現代社会では、空き家問題が大きな課題となっており、住民に深刻な被害をもたらす可能性が懸念されます。

第2に、その問題を解決するための政策を支える、理念や価値観を2点述べます。1点目に、政府が掲げているように、温室効果ガスの排出量を、家庭部門で66パーセント削減することに寄与すること。2点目に、2030年までに、ハウスメーカー等が新築する注文戸建て住宅の平均でゼロ・エネルギー・ハウス化、以下ZEHと呼称、の実現を目指すこと。

第3に、政策を主張します。その政策名は『空き家を利用したZEHの普及』です。繰り返しますが、政策は『空き家を利用したZEHの普及』です。ZEHとは、この図のように、年間の住宅のエネルギー消費量が、正味ゼロとなる住宅のことです。では、政策の内容と理由を具体的に説明します。政策内容は、全国にある空き家を利用してZEH化するため、各種ハウスメーカーなどに委託します。そして、改装されたZEHを、その物件が存在する地方公共団体が、貸し出し、民泊登録などをして、ZEHの普及、供給拡大を目指す政策内容です。本政策を主張する理由は、家庭部門のエネルギー消費量の削減に着眼点を持ち、ZEHの普及により、環境に優しい生活を送りながら、生活の質の向上を図り、本政策を通じた経済活動の進展を促すためです。

第4に、その政策を実現するための計画と、生まれる効果について述べます。計画としては、省エネルギー投資促進事業等の予算を活用し、段階に分け、計画を進めていきます。第1段階として、全国のうち、CO₂の排出量が多い五つの地域の空き家を対象として、ZEH化を進めます。第2段階として、改装されたZEHを多くの人に利用してもらい、ZEHに対する認知度の向上を図ります。第3段階として、本政策の規模を徐々に拡大していき、

2030年までに、ハウスメーカー等が新築する注文戸建て住宅の平均で、ZEHの供給拡大を目指します。政策の効果について述べていきます。環境省によると、戸建て住宅をZEHに変更した場合、1世帯当たりの年間のCO₂削減量は、約3600キログラムとされています。そして、本政策を実行し、2030年までにZEHが供給拡大すれば、CO₂排出量を1000万トン以上削減することが見込まれます。また、利用者にとっても生活の質の向上も期待でき、さらに、ZEHを通じた経済活動の進展も見込まれ、空き家問題の解決の一助も担えます。

第5に、政策提案を振り返り、重要な内容を強調します。本政策は、第1段階として空き家のZEH化、第2段階としてZEHを普及させること、第3段階として政策の対象地域を広げ、供給拡大を目指し、温室効果ガスの削減に寄与します。

以上で政策提案を終わります。ありがとうございました。

後攻チームのための準備時間（2分間）

ステージ②／先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

宮城教育大学附属中学校さん お願いします。まず、ZEHというものの説明を伺いたいなと思っていて。実質、エネルギーの消費量をゼロって言ってたんですけど、どのようにしてゼロにするのかっていうところを、少し具体的をお願いします。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ご質問ありがとうございます。まず、ZEHとは、ゼロ・エネルギー・ハウスの略で、消費する電気を太陽光発電などで発電し、また、さらには、断熱性の高い壁などで熱を逃がさない家で、消費する電力と作る電気が同じ、もしくはそれ以上になる家のことです。

宮城教育大学附属中学校さん なるほど。ありがとうございます。今まで知らなかったんですけど、それは、もともとあって、ちゃんと実現も既にできてる、太陽光で全部まかなえてるっていうものなんですか。

盛岡中央高等学校附属中学校さん はい。もともと、割と最近、有名になってきたものなのですが、名前にあるとおり、太陽光などで電気を作るので、消費する電気よりも、作る電気のほうが、同じもしくは多くなる家のことなので。まかなえます。

宮城教育大学附属中学校さん はい。ありがとうございます。そのZEHに関して、また質問なんですけれども、そのZEHっていうのは、太陽光パネルを設置したり、断熱性の高い壁を設置したりするなど、家を建てる上でエネルギーが消費されるっていうことについては、どうお考えですか。

盛岡中央高等学校附属中学校さん はい。ご質問ありがとうございます。やはり、家を建てるときには電気がかかってしまうと思うので、そこは、ご意見ありがとうございます。

宮城教育大学附属中学校さん はい。ありがとうございます。空き家を ZEH に変えて、そこに移り住んでもらうということだと思うんですけど、その移住した人がもともと住んでいた家っていうのは、また空き家っていうか、そこが空くと思うんですけど。結果、家の数が変わらないのかなって思ったりもしてるんですけど、どうなんですかね。

盛岡中央高等学校附属中学校さん その点については、実際、今、住んでる家から移住してわざわざそこに住むというよりは、今、新しい家を求めている人がそこに新しく住むというようなことなので。実際、前の家がどうなるっていうのは、今回の政策提案では話していませんでした。もともと移住を考えていた人たちが、普通の、通常の家に住むよりも、ZEH に住んだほうがいいっていう話です。

宮城教育大学附属中学校さん はい。ありがとうございます。でしたら、そういう新たな、これから新しく住むよっていう人向けの、何か ZEH を広める活動とかが、その政策に加えられると、より具体的にいいんじゃないかなと思います。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ご意見ありがとうございます。活用させていただきます。

宮城教育大学附属中学校さん 先ほどの政策提案で、エネルギー消費量が多い五つの地域に先に導入するとおっしゃっていたんですが、その五つの地域っていうのは具体的にどこか、教えていただけますか。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ご質問ありがとうございます。その五つの地域は、東京、北海道、大阪、広島、宮城です。その地域を選んだのは、全国 47 都道府県の空き家率と、経済産業が出している都道府県別の温室効果ガスの量と、建設住宅着工数が多い五つの地域から選出しました。

宮城教育大学附属中学校さん ありがとうございます。その ZEH の設置費用や、民泊化したときの費用を、地方公共団体がまかなうっておっしゃっていましたが、そこについてなんですけれども、地方公共団体とかがお金を支出するとなると、その団体への負担っていうのはどのように考えているんですか。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ご質問ありがとうございます。その・・・<タイマーの音＝制限時間終了>

宮城教育大学附属中学校さん ありがとうございます。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ありがとうございます。

ステージ③／後攻チームによる政策提案《後攻／宮城教育大学附属中学校》(4 分間)

宮城教育大学附属中学校さん お願いします。これから、後攻チームとしての政策提案をします。第 1 に、提案

を求める問いを受けて、取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。第2に、私たちが提案する政策を通して、目指す社会像を述べます。第3に、プランとその理由を具体的に主張します。第4に、そのプランを実行することで生まれる効果について述べます。

それでは第1に、提案を求める問いを受けて、取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。現在、日本全体のエネルギー消費量のうち、企業が占める割合は、経済産業省の2020年度の資料によると、84パーセントです。これは現在、減少中ですが、それでも大部分を占めていることには変わりありません。

第2に、私たちが提案する政策を通して目指す社会像を述べます。私たちは、企業単位で省エネへの関心を高めることで、企業に勤める方たちの省エネへの関心を高め、経済活動や生活の質を落とさず、省エネを目指す社会を目指しています。

第3に、私たちの政策プランを述べます。その政策を名付けて言うならば、『企業の底力を見せろ。企業の省エネ意識改革』です。繰り返します。『企業の底力を見せろ。企業の省エネ意識改革』です。ではその内容と理由を、以下の四つに分けて説明します。第1に、この提案の特徴について説明します。第2に、具体的な政策の内容を述べます。第3に、この政策を行うことで生まれる省エネ効果について述べます。すみません、失礼しました。三つの項目です。

まず最初に、この提案の特徴について説明します。省エネ政策を考えるときには、私たちに届く具体的な財やサービスをどうするか提案が挙げられます。ですが、私たちは、その商品や物が作られる段階でのエネルギー消費に注目し、そのシステムにアプローチする政策を考えました。第2に、具体的な政策の内容を述べます。この政策では、省エネのための補助金を減らし、省エネできている企業への法人税負担を軽減します。そして、省エネできていない企業に、省エネを目指してもらいます。その際の、省エネできているかどうかの判断には、資源エネルギー庁が行っている、事業者クラス分け評価制度を用います。事業者クラス分け評価制度、別名、SABC評価制度というのは、資源エネルギー庁が、二つの目標を達成できているかを判断することによって、事業者がどれだけ省エネできているかをクラス分けするというものです。二つある目標の一つ目は、努力目標というものです。これは、エネルギー消費の直近5年間の平均を、1パーセント以上軽減するものです。二つ目は、ベンチマーク目標というものです。これは、資源エネルギー庁が、各業界で全体の1割から2割の事業者のみが達成している水準を定め、これを目標としています。これらの目標のいずれかを達成している事業者をSクラスに、いずれも達成していない企業の中で、省エネできている順にA、B、Cクラスに分類しています。私たちの政策では、ここに、二つの目標をいずれも達成している会社を分類する、SSクラスを加え、SSクラス、Sクラスに対し、法人税負担をSSクラスには5パーセント、Sクラスには3パーセント、それぞれ軽減する政策を実施します。第3に、この政策を行うことで生まれる、省エネ効果について述べます。この政策を行った上で、大企業の半数が努力目標を達成し、SSクラス、Sクラスに入った場合、原油換算で600万キロリットル、二酸化炭素量換算で1600万トンのエネルギー消費を減らすことができます。これは、資源エネルギー庁、商工総合研究所、中小企業庁の統計データを元に試算しました。

最後に、この政策を導入するメリットについて4点述べます。第1に、生活での消費よりも、大きな省エネが期待できます。生活活動より消費するエネルギーが多い上に、企業だからこそのノウハウでの省エネができると考えます。第2に、省エネ技術の開発競争が期待できます。ベンチマーク目標という、業界全体に対してより省エネできている、限られた企業が評価されるものを用いているので、他社よりも省エネしようと競争心が生まれ

ると考えています。第3に、国家の財政的負担は増加することはありません。補助金分を法人税負担に充てます。第4に、経済活動や、生活の質は落とさずに済むということです。むしろ企業からすると、負担が減るので、プラスなことだと考えています。

以上、問題の現状解決、基本的な立場、プランの具体と効果を述べました。ご質問、ご意見をお願いします。

先攻チームのための準備時間（2 分間）

ステージ④／後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5 分間）

盛岡中央高等学校附属中学校さん まず、この政策についてですが、1 家庭当たりではなく、企業という一つ当たりが大きいので、効率がいい点で、とてもいいと思いました。そこで質問なんですけど、この政策を行うときに、企業側には、環境への配慮ができること以外にどういった利益があるんですか。

宮城教育大学附属中学校さん 環境への配慮をして省エネを行った企業に対して、法人税負担を軽減するというものなので、企業側からしたら、法人税負担が軽減されるというメリットがあると思います。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ありがとうございます。あとは、SABC って、SS クラスでは 5 パーセント、S クラスでは 3 パーセントっていう、下げられるっておっしゃっていたんですが、この値はどうして出てきたんですか。

宮城教育大学附属中学校さん こちらは、この政策では、今まで省エネのために使っていた補助金を減らして、その分を法人税負担に充てるというものなので。そこで、今までの補助金の中で、無理ない範囲で法人税負担を軽減できるパーセントを、私たちのほうで、経済産業省のデータや国税庁のデータを基に試算したものです。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ありがとうございます。最初のほうで、少し聞き取れなかったんですが、何が 84 パーセントを占めているって言ったんですかね。

宮城教育大学附属中学校さん 84 パーセントという数字は、日本全体のエネルギー消費量のうち、企業が占める割合が、経済産業省の 2020 年度の資料によると、84 パーセントと述べさせていただきました。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ありがとうございます。政策の効果の部分で、CO₂排出量が 1600 万トン削減できるとおっしゃっていたと思うんですが、その統計データって、計算式とかってどのように出されましたか。

宮城教育大学附属中学校さん そちらは、資源エネルギー庁のデータから、企業が出しているエネルギー消費の量を出しまして、その中で、中小企業と大企業のエネルギー消費の比というものを、商工総合研究所のデータから受け取って、それを元に、大企業がどれだけエネルギー消費をしているのかというところを試算して。そこか

ら1パーセント減できた場合ということなので、99パーセント、すいません、1パーセント、その中の1パーセントを省エネの量としています。そこを、原油と二酸化炭素量に換算しました。

盛岡中央高等学校附属中学校さん 先ほど質問した内容に近いんですが、補助金をなくすことで、税金の負担、法人税の負担を減らすと言ってたんですが、減らした分の補助金と、法人税減らした分の補助金ってどっちのほうが多いとか、ありますか。

宮城教育大学附属中学校さん 法人税負担の軽減によって軽減されるお金のほうが、少ない。なので、少し補助金からは出せるように試算。補助金が少し余るようなパーセンテージというか、軽減の率にしています。

盛岡中央高等学校附属中学校さん ありがとうございます。先ほどの質問での、こっちの質問での、企業側の利益というところで、補助金から法人税に移る金額を、SSクラスとSクラスで……。<タイマーの音=制限時間終了>ありがとうございました。

(準備時間 5 分間)

ステージ⑤/後攻チームによる論点明示と政策の再提案 (4 分間)

宮城教育大学附属中学校さん ではこれから、再提案をさせていただきます。まずは、先ほどの質問を受けて、少しデータの部分について詳しく触れられなかったところがあるので、まずそこから少し話していきたいと思います。まず、補助金と法人税の割合について、割合とか、余る余らないみたいな話をしたんですが、そこについて詳しく説明しますと、省エネに関する補助金、出されている額っていうのが、2020年度経済産業省の資料によると、約8000億円ほどあります。その中で、その部分、8000億円を減税分したときに、減税した分、お金が足りなくなる。そこをここに充てるっていうことなんですが、大体、大企業が、現在の大企業の半数を達成した、努力目標を達成したという話をしているので、半数が努力目標を達成したという場合に、法人税、納める法人税の額が、大体3000億円ほどあるんですね。そこを軽減させていったときに、難しい話になってしまうんですが、約5.7パーセントが、大企業の半数の5.7パーセントの法人税を削減した場合に、大体8000億円ほどの、減税する量になってしまう。なので、ここを5パーセント、3パーセントにすることで、もちろん、半数以上の企業が法人税負担軽減を受けた場合にも対応できるし、その余らせたお金で、何か新たな補助金を出したりすることもできると思っています。

次に、データ以外の話をしていくんですが、まず、盛岡中央付属中学校さんから受けた意見から、政策を聞いて私たちが生かしたいと思った点なんですが、私たちの政策においては、なかなか、認知という話があり内容に出ていなくて。ただ最初に、事業者貸付制度を使うっていうのを企業に伝えるだけになってしまうので、国民の皆さんが知る機会がないということに気付かせてもらいました。そこを参考にして、五つの地域でモデル化するように一度するっていうのが、いい意見だなと思ったので、それを利用して、モデル化とかはしないんですが、何かSクラス、SSクラスに入った場合は、企業が告知していいっていうものを国がしっかり認めて、また、国と

しても、このようなやつやりますっていうのを、何か、YouTube の広告等、そういうものを使って宣伝していくっていう方法を、私たちも新たに取り入れてみたいなと思いました。

ではここから、私たちの政策と、そちらの政策で、比較したい観点っていうものを述べていきたいと思います。まず、観点としては、二つほどありまして。まず一つ目なんですけど、家を建てるコストっていう面、その観点にすると、私たちの政策では、今まで補助金分に充ててたものを減税分に充てるってことなんで、コストは実質ゼロになると思うんですけど。そちらの政策だと、最先端の技術とかをいろいろ使った家を建てる、リフォームするっていう形にはなると思うんですけど、すごくコストがかかってしまっているのではないかなと思ってまして。その観点からすると、私たちのほうが、コストがないよっていう点では優れているのかなと思いました。そして、次の観点ですが、費用対効果ですかね。そこさっきの似ているんですけども、私たちは、コストがゼロで、さらに 1600 万トンの二酸化炭素が減らせるってことだったんですけど、そちらの政策だと、コストを掛けて、1000 万トンの二酸化炭素量しか減らせないというところで、費用対効果に優れているのではないかなと・・・
<タイマーの音=制限時間終了> ありがとうございます。

ステージ⑥／先攻チームによる論点明示と政策の再提案（4 分間）

盛岡中央高等学校附属中学校さん 先攻チームとして、相手チームとの質疑と意見交換を生かして、重要な論点の明示と政策の再提案を行います。よろしくお願いします。最初に、先ほどの政策提案についての質疑と意見交換について振り返ります。1 点目は、ZEH とはどのようなもので、どのようなメリットがあるのか。2 点目は、空き家を ZEH 化した家に移住するとなると、今住んでいた家が空き家になるのではないかと、などの質問をいただきました。

この質問に対して、重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案を行います。見直した政策内容は、全国にある空き家を利用して ZEH 化するため、各種ハウスメーカーなどに委託します。この際に、移住する人の家なども、以前の所有者などと相談をしながら、問題を解決していく方針をとりたいと思います。そして、改装された ZEH を、その物件が存在する地方公共団体が貸し出し、民泊登録などをして、ZEH の普及や供給拡大を目指します。この点で、ネットや街の中の広告、それから貸し出しや民泊登録などを利用して、ZEH の認知度を上げて、それによって多くの人に利用してもらうことができますようにします。

では、両チームの現状分析に戻り、再提案した政策が、相手チームの政策より重要であることの理由を述べます。まず理由としてあるのが、CO₂ の削減ができるということです。相手チーム側でも CO₂ の排出を防ぐことができますが、私たちのチームの政策を反映させた場合でも、CO₂ を 1000 万トンと大きく削減することができ、これは省エネに大きく貢献することができると思います。そして、多くの人へ利益があるということです。相手チームの政策では、大企業に勤める人のメリットが大きいですけど、こちらのチームでの政策では、私たちの家を利用する人たちへのメリットも大きく、そしてさらに、家を買えない人でも、貸し出しや民泊登録をするので、そのような、家を買えないという人でも、利用することができます。そしてさらに、空き家問題、これは景観の問題や、倒壊する危険性など、そのような問題の解決の一助を担えます。このような点から、私たちの政策が相手チームの政策よりも重要であると考えました。

最後に対戦相手のチームの皆さんや、審判、聴衆のかたがたにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

高校生の部 決勝戦

●高校生の部 決勝戦 14:15～



《先攻チーム》福島県立磐城高等学校

《後攻チーム》秋田県立秋田西高等学校

ステージ①／先攻チームによる政策提案《先攻／福島県立磐城高等学校》（4分間）

福島県立磐城高等学校さん よろしくお願ひします。1、政策について。政策名は『商品輸送過程におけるエネルギー消費量の抑制』です。この政策の目的は、現在のガソリン車中心の輸送から鉄道や省エネ車など、消費エネルギーを削減できる輸送へのシフトを促すことです。政策の概要を2点に分けて説明します。A、評価項目の追加。資源エネルギー庁の事業者クラス分け制度において、小売業者等の評価項目に、運搬時に省エネにつながる取り組みをしたかという項目を加えます。B、輸送管理アプリの導入。輸送管理アプリには、トラック、鉄道、航空等の運輸業者、メーカー、農家等の生産者、小売業者が登録します。まず、運輸業者が輸送可能な時間、路線、輸送機関の燃費を登録し、生産者と小売業者は荷物の内容や量、場所、時間を登録します。そして、これらのデータを基にアプリが荷主と運輸業者をマッチングし、幾つかの配達ルートをも荷主に提示することになります。このとき、推奨ルートは最も省エネな経路とし、必要に応じて他の手段を選択できることにします。また、この推奨ルートを通ることを政策の概要1で述べた制度のCO₂削減につながる取り組みとして評価します。

2、現状分析。現在、限られた化石燃料を世界全体で共有しているため、ウクライナ情勢の影響により、エネルギー価格の上昇や供給不安が起きています。また、化石燃料の使用は多くのCO₂を排出し、地球温暖化の原因になっています。また、ガソリン車による輸送は特にエネルギーを多く利用します。国土交通省、令和4年7月のデータを基に算出すると、2020年度、貨物自動車は日本のCO₂排出量の6.9パーセントに当たる6352万7520トンを出しています。日本通運によると2016年度のトンキロあたりのエネルギー消費量は鉄道では442キロジュールであるのに対し、トラックでは2099キロジュールです。もし仮に、トラックから鉄道に全ての輸送がシフトしたら、現在の21パーセントのエネルギーで輸送できることとなります。よって、現状、荷主が自動車以外の手段を検討できないことは、化石燃料の浪費であり、これも地球温暖化の原因の一つであることは疑いありません。

また、自動車輸送の場合でも省エネ車の利用や共同輸送により、CO₂の排出量とエネルギー消費量が減らせます。福島民友新聞2022によると、セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソンが実施した同年2月の共

同配送の実証実験では、CO₂の排出量が45パーセント減少しました。CO₂削減とエネルギー消費量の減少には関係があると考えられるため、政策の導入により、エネルギー消費量を減らすことができます。

3、効果。この政策はCO₂排出量、エネルギー消費量の両方を抑制し、より省エネな行動を無理なく選択できるようにします。また、化石燃料の使用を減らせるため、燃料が高騰している状況でも商品の価格への転嫁を少なくできます。国がこのシステムを構築することで、自分の力では新しいことができない中小企業や生産者も、スムーズに新しいシステムに移行することができます。また、現在も500キロメートル以上の陸上貨物輸送のうち30パーセント以上、鉄道を利用している商品にはエコレールマークが表示されていますが、政策導入後は、これが付いた商品が増えるため、人々が省エネを心掛けるきっかけになることも大きな効果といえるでしょう。以上です。ありがとうございました。

後攻チームのための準備時間（2分間）

ステージ②／先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

秋田県立秋田西高等学校さん 質問させていただきます。アプリを使うとおっしゃっていましたが、誰が作って、どこからお金が出るのか知りたいです。

福島県立磐城高等学校さん 作るのは国というふうに考えています。お金を出すのは、もちろん国になってしまうんですけど、例えば、現状の宅配便のアプリとか、そういうものを応用できると思うので、費用については、そこまでかかるとは思っていません。

秋田県立秋田西高等学校さん 分かりました。鉄道での運搬になったら、全部が鉄道での運搬になってしまったら、トラックを運転してた人の仕事がなくなると思うんですが、どうですか。

福島県立磐城高等学校さん ここは立論をもう一回、見直してほしいんですけど、全ての輸送を鉄道にするっていう話ではなくて、例えば、大阪から福島まで運ぶのに距離が長いから、その間は鉄道にして、駅からはトラックとか他の手段を使うっていうふうに、幾つかのルートを表示して使い分けると感じになるので、そういうふうにはならないかなと。

秋田県立秋田西高等学校さん 分かりました。それとアプリの質問に続けて。適切なルート、現在地から目的地までの適切なルートっていうことだったんですけども。さっき、大きな移動であると鉄道にして、駅からその先のこまごましたところっていうと、さらに別の手段っていうことだったんですけども。そうなってくると、駅から目的地まで、配達先になってくると、普段とルートが別に変わらないのではないかという。もちろんCO₂が一番排出されないのは、走行距離が一番短ければ排出される量も少なくなると思うんですけども。どうでしょうか。

福島県立磐城高等学校さん まず、そもそも、長距離をトラックで運んでいたところが鉄道に切り替わるので、その分、CO₂は十分削減できると思いますし、例えば、駅から目的地に輸送するってなっても、立論書を見返してほしいんですけど、共同配送とかそういう手段を取ることもできるので、十分にCO₂を削減する過程はあると思います。

秋田県立秋田西高等学校さん 鉄道を使っていくことで、もちろん、線路とかですので、電車とか場合によっては新幹線とかが通っていると思うんですけども、時間の兼ね合いといいますか、都市部になればなるほど利用者も、もちろん多いですし、そこについて兼ね合いがちょっと難しくなってしまうのではないかなと思うんですけども、どうでしょうか。

福島県立磐城高等学校さん 輸送可能な時間を運輸業者がアプリの導入のときに登録するっていうふうにするので、ある程度、時間の兼ね合いはできると思うんですけど、分かりづらいようだったら、もう一回、再提案で述べます。

秋田県立秋田西高等学校さん 分かりました。トラック運送から鉄道運送になることで、現在の21パーセント。およそ21パーセントのエネルギーで輸送ができるって話だったんですけども、実際に、それでCO₂、どのくらい減るといえるか、見込みといえるか、ありますか。

福島県立磐城高等学校さん CO₂の話はできてないんですけど、CO₂削減とエネルギー消費量のところに相関があるっていうふうを考えて、その次の資料のCO₂の排出量が45パーセント減少したっていうところを見てほしい。そこを合わせて考えると、プラン後は十分にCO₂が削減できるんじゃないかなと思います。

秋田県立秋田西高等学校さん 後半のほうで、環境について心掛けるきっかけっていうことがあったと思うんですけども。実際に運送している、輸送しているっていうのは、鉄道会社とかそういうふうになってくると思うんですけど、そこに、一人一人の意識に向かうために、どう過程があるのかなっていうことを知りたいです。

福島県立磐城高等学校さん 今の立論中で言ってるのは、エコルールマークっていう、鉄道の輸送を利用しているものに付いているマークで、消費者が心掛けるきっかけになるっていうふうに言ってるんですけど、これだと、まだ不十分なところとかあるかもしれないので、もう一回、再反駁で考えて述べます。

秋田県立秋田西高等学校さん 分かりました。エコであることを伝えるっていうのはとてもいいことだと思うので、方法についても……。<タイマーの音=制限時間終了>

ステージ③/後攻チームによる政策提案《後攻/秋田県立秋田西高等学校》(4分間)

秋田県立秋田西高等学校さん これから、私たちの政策を発表します。私たちの提案する政策は『バイオマス発

電で生活に余裕を』です。本政策は、エネルギー価格が高騰している中、バイオマス発電による電力供給量の増加、安定化を実現して利用可能エネルギーを増やし、経済活動や生活の質を落とすことなく、発電量に対する化石燃料由来の電力エネルギー利用量の割合を減らすことを目指します。

現在、日本の発電割合のうち、約 20 パーセントを再生可能エネルギーが占めていますが、バイオマス発電の割合は全体の 3 パーセントにとどまっています。バイオマス発電の発電量が少ない主な理由として、発電コストが高い、安定した燃料の確保ができない、小規模分散型になりやすいという三つが挙げられます。これらのデメリットを解消することで、バイオマス発電を実用化しようと考えています。

まず燃料の確保について。現在バイオマス発電は、木質燃料、バイオ燃料、バイオガスを燃料にして発電しています。中でも、私たちは、主に食品廃棄物をもとに生成するバイオガスを使用することで燃料を安定して確保しようと考えました。もとなる食品廃棄物を確保する手段として、家庭からの廃棄物の他、地域の総菜屋さんやコンビニ、飲食店と連携して廃棄物を回収することを考えています。

次に発電コストについて。現在、不燃物を除いた一般廃棄物は、焼却か埋め立て処分かのいずれかで処理されています。焼却時に発生する熱は、熱回収施設で発電に利用されたり、浴場や冷暖房等の熱供給に用いられたりするものの、活用されず排出される熱も多いのが現状です。そこで、バイオマス発電で発生した廃棄物エネルギーとしての熱を回収し、植物工場や発酵製品工場などの熱源として利用し、事業化することで、発電コストの削減と省エネルギー化の推進につなげます。例として、長野県では発電によって排出された熱をトマト農園に供給することで、ガラスハウスの保温用の熱の一部に利用しています。これにより、ボイラーに使用する LPG 燃料を削減し、CO₂の排出量は年間約 600 トン減っています。

最後に小規模分散型になる点について。バイオマス発電は、発電施設が小規模で分散しやすく、発電に使用する一般廃棄物を各所の発電施設に輸送するコストが増えるといわれています。そこで、ごみ処理場に併設、または近隣に発電所を建設することで、輸送コストをほぼ増やさずに発電します。発電した電力は各家庭に供給する他、電動トラックの電源として使用し、小規模分散型のデメリットを相殺します。一番規模の小さい約 1 ヘクタールの苫小牧の発電所では、年間 3600 万キロワットを発電することができ、これは家庭に全て供給すると約一万世帯分にあたり、電動トラックである場合は 24 台分、動かすことができます。この政策における財源は、エネルギー効率の改善や再生可能エネルギー事業などの環境問題の解決に使用する、グリーン国債で賄います。

以上の政策を実現することで、国内の廃棄物で発電の材料を賄えるため、電力供給の安定化だけでなく、エネルギー価格の高騰にも対応できます。また、苫小牧市のバイオマス発電所の発電量を基準とし、全国に約 1000 カ所建設すると、発電量は年間 360 億キロワットとなり、全体の発電量に対する割合は約 3 パーセントから約 7.2 パーセントまで上昇します。経済活動を妨げずに発電量を確保し、エネルギー自給率の向上と地域の省エネルギー化を実現できるため、この政策を提案します。

先攻チームのための準備時間（2 分間）

ステージ④／後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5 分間）

福島県立磐城高等学校さん 始めます。お願いします。まず、政策のところでおっしゃっていた、日本で一番小

さいバイオマス発電、苫小牧の所が1ヘクタールとおっしゃってたんですけど、これをごみ処理場に併設するってなったときに、どれくらい併設が可能なんでしょうか。1ヘクタールってすごく大きい土地だと思うんですけど。

秋田県立秋田西高等学校さん 1ヘクタールは、四方100メートルという感じになるので、思っているほど、多分、大きくないと思います。

福島県立磐城高等学校さん でもそれ。どうぞ。

秋田県立秋田西高等学校さん 大丈夫ですよ。いいですよ。

福島県立磐城高等学校さん 例えば、都心とかにそれを作んなきゃいけないってなったときに、それだとしても、だいぶ大きな土地になると思うんですけど。それを全国的に造るってなったら、どれくらい造れると考えてますか。

秋田県立秋田西高等学校さん ごみ処理場が約1060カ所ぐらいあるんですけど、まず、土地の空いていないところに関しては後回しで、先に土地の空いてる所から建てていくって感じになっていきます。

福島県立磐城高等学校さん 分かりました。ありがとうございます。例えば、私たち、福島県に住んでるんですけど、福島県は2035年までに全ての発電を、持続可能な再生可能エネルギーに切り替えていくっていう方針が既に立っているんですけど、そういうところも増えていく中で、どうしてバイオマス発電に特化して、今、急に国で一気に進めなきゃいけないっていうふうにおっしゃるのか、その理由を教えてください。

秋田県立秋田西高等学校さん バイオマス発電の魅力として、二酸化炭素、排出したとしても木質チップとか生ごみとかから出るので、プラマイゼロっていう形になって、とても環境に優しいということで、まず発電の要素として一つ、とても魅力があるものだと私たちは考えています。今、食品ロスとかも問題になっているじゃないですか。その食品ロスしている部分を発電に生かせたら、もっとより良いものになるんじゃないかっていう考えの下で、こういう政策を提案しているのです。そういう、福島県の政策と一緒に進めていくっていう形でも、全然、いいんじゃないでしょうか。

福島県立磐城高等学校さん 分かりました。ありがとうございます。じゃあ、現状分析のところで、今、バイオガスに注目して、食品廃棄物とかを利用して発電するっていうふうにあったと思うんですけど、こういうものを安定して電力を供給することはできるんですか。

秋田県立秋田西高等学校さん 電力の安定して供給できるのかっていう点に対しては、家庭ごみだと確かに安定性はあんまりないかなって思われると思うんですけど、総菜屋さんなどを考えると、必ず端材っていうものが起

きまして、それは安定して取られるものだと自分たちは考えていて、そこから端材を含めた量で、電気をバイオマス発電で作るというふうを考えているので、電気の供給量に関しては、安定するのではないかなと思っています。

福島県立磐城高等学校さん ありがとうございます。この政策の一番の効果を述べてください。例えば、CO₂、減るとかそういう。

秋田県立秋田西高等学校さん なるほど。まず一番の効果は、さっきも少し触れたんですけど、食品ロスがなくなるって感じですね。ロスはしてるんですけど、それも生かせる。かつ、それを生かして発電ができるっていうのが一番の効果になります。そこで増えた分、発電量が増えた分、今、火力発電が日本で一番割合は高いんですけど、その火力発電の割合をバイオマス発電で増えた分、減らすことによって、今まで出た二酸化炭素の排出量も削減できるということですかね。

福島県立磐城高等学校さん じゃあ、この政策後って、本当にバイオマスが増えた分、そういう火力発電とかの発電量が減るようになるんですか。

秋田県立秋田西高等学校さん なります。

福島県立磐城高等学校さん それはどうしてですか。＜タイマーの音＝制限時間終了＞ありがとうございました。

秋田県立秋田西高等学校さん ありがとうございました。

ステージ⑤／後攻チームによる論点明示と政策の再提案（4分間）

秋田県立秋田西高等学校さん それでは、論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案をします。先ほどあった、なぜ火力発電が減らせるのかという質問に関して。バイオマス発電を進めるにあたって、現在、安定して電力を補っている火力発電を減らすことができます。それにより、火力発電に使用する太陽光や風力といった、自然環境に左右される不安定な電源と違い、燃料さえ確保することができれば安定した発電量が見込めるため、貴重な再生可能エネルギーのもととなる電源として活用することができると期待されています。

もちろん、もととなる電源にするためにはエネルギー源を安定して確保することが課題になります。しかし、私たちの提案では、総菜の端材などの生ごみの量が安定して出る事業所を主にエネルギー源を供給し、安定的に燃料を確保することができます。バイオマス発電では、発酵したバイオガスで発電機を回すことで熱が発生します。現在、その熱の約6割は活用されず廃棄されています。本政策では、この廃熱を利用します。この熱を温水として、配管を使って各事業所に運びます。例として、長野県のトマト栽培の他に、北海道鹿追町にある鹿追町環境保全センターでは、発電熱を利用し、チョウザメ飼育水槽の温度管理などに活用することで、発生した熱を無駄にすることなくエネルギー消費を抑えることができます。

一つ一つの事業所のエネルギー消費を求めることは難しいですが、排熱を利用して化石燃料の使用を削減できるため、省エネルギーになることは確実です。電動トラック自体は300万円のトラックと、トラックにしては高価ですが、その分、普通乗用車と違いガソリン代がかからず、バイオマス発電で発電した電気を利用して運転するので、長持ちすればするほど電動トラックのほうが安くなるということになります。さらに、私たちが使う電動トラックはCO₂の排出がありません。北海道苫小牧市晴見町では120メートル掛ける120メートルという国内最小の設置面積でバイオマス発電所が建設されているため、バイオマス発電所を建設する土地を得るための環境破壊は、そこまで大きい問題にはならないと考えます。

また、バイオマス発電所は他の発電所よりも使用する土地が少なくなっています。そして、このバイオマス発電所では一万世帯分の電力を供給することができます。1日当たりの1人のごみの排出量は、富山県が1046グラムと最も多く、その次に福島県、新潟県となっていて、ごみの排出量が多い件から順にごみ処理場にバイオマス発電所を隣接させて、バイオマス発電を進めていくことが効率的だと考えました。

また、私たちの政策提案は火力発電の発電量を減らすことでCO₂の排出量を減らすことができます。電気の量を底上げすることで使える電気を増やしている、相手チームの商品輸送が便利になる点を加えると、これからの生活をより豊かなものにできると思いました。相手チームの政策は、ガソリン車から鉄道輸送に変えているので、結局、鉄道だとしても燃料が必要になると思います。しかし、私たちの提案は火力発電の発電量を減らすことができる上、食品ロスも減らすことができ、発電によってできた熱も活用することができるという点では、私たちのほうが優れていると思いました。このことから、私たちは『バイオマス発電で生活に余裕を』という政策を提案します。

ステージ⑥／先攻チームによる論点明示と政策の再提案（4分間）

福島県立磐城高等学校さん お願いします。まず、再提案を行います。相手側さんの質疑で、環境について心掛けるっていうのが会社で、個人というのはどう心掛けるのかが、私たちの現在の政策では分からないというご指摘をいただきましたので、エコルールマークのPRをするということを再提案に加えます。エコルールマークのPRをすることによって、エコルールマークというのはエコなものだって分かって、消費者がそれを買うというインセンティブになります。

次に、相手側さんからの質疑だったんですけど、線路などが必要なものっていうのは、私たち、政策提案で述べたんですけど、アプリで弾力的に輸送方法っていうのは選べて。なので、現状のトラック輸送よりは省エネな方法を選ぶことができるよっていう話でした。そして、相手側さんの政策提案の話なんですけど、現代日本っていうのは、省エネの流れです。その流れの中で、わざわざ、このバイオマス発電を増やすっていうことをするっていう意味は、そんなにないと思います。さらに1ヘクタールの土地っていうのは、都心部ではなかなか取りにくいものです。なので、政策というものは、そのまま実施できるかは、ちょっと不透明だと思えます。

そして、あと今回のテーマなんですけど、ウクライナ情勢の影響でエネルギーの価格の上昇や供給不安が起こる中、経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策というものでした。相手側さんの政策であると、バイオマス発電ということで、別にエネルギー消費量を減らすっていうことはないんじゃないかなと思います。バイオマス発電っていうのは、植物が酸素を出して二酸化炭素を吸収するっていう話で

プラマイゼロの発電方法なんですね。なので、CO₂を減らすというよりは現状維持というものになってくると思います。対して、私たちの政策っていうのは、商品輸送過程におけるエネルギー消費量を抑制して、さらにCO₂も減らすことができるというものになっています。

そして、あと相手側さんの話なんですけど、3パーセントから7.2パーセントのバイオマス発電が増加して、それによる効果っていうのは、現代日本においては少ないものだと思います。さっきの量の話でもあったんですけど、相手側さんは600トン減らすことができる。私たちは20パーセントぐらい。80パーセント削減して4800万トンぐらい削減できる。さらに相手側さんっていうのは、無駄を利用するというので、やっぱりここもプラマイゼロなんですね。対して、私たちっていうのは、現在、ウクライナ侵攻などで上昇している物価を抑えることができるかもしれないというメリットも発生するんですよ。なので、消費者の生活の質を落とさず、逆に上げるという面で見ても、われわれの政策のほうが優位であるとは考えます。

そして、相手側さんの再提案で、鉄道輸送も結局、燃料、使うじゃないかっていうお話があったと思うんですけど、それっていうのは鉄道は燃料の問題ではなくて、鉄道で運ぶことによって車よりもCO₂の排出量が減るよっていうところなので、別に燃料は関係ないです。そして最後に、われわれはエコルールマークのPRを加えた政策という、商品輸送過程における、輸送過程におけるエネルギー消費量の抑制という現状。現状はCO₂を排出したり、CO₂の排出で燃料の使用し過ぎによって、地球温暖化の原因になっているっていうところを、より減らせると。CO₂の排出量、エネルギー消費量の両方を抑制して、よりエコルールマークなどによって、省エネな行動を無理なく選択できるようにします。さらに、化石燃料の使用を減らして、燃料が高騰している状況でも商品の価格への転嫁を少なくできるという、われわれの政策のほうが、相手側さんの政策と比較して優れていると考えます。これで終わります。ありがとうございました。

●中学生の部決勝戦解説、結果発表 15 : 25～



大会実行副委員長
全国教室ディベート連盟
本田 紘信

ただいまご紹介にあずかりました本大会の実行副委員長を務めております本田と申します。

中学生の部の決勝戦の講評判定の方を行っていきたくと思います。よろしくお願いいたします。

まずは両チームのディベーターの皆さん、大変お疲れ様でした。議論を聞いていて、皆さんがこの大会のために、いろいろ調べ準備をして、この政策テーマに対する回答を用意するプロセスの中で、たくさん調べてきたことがよくわかる議論になっていました。とくに、制度や省エネに関する単語に知識が表れていました。例えば、先攻の盛岡中央高等学校附属中学校さんは、ZEH という言葉を使用していました。ZEH という言葉は、宮教大附属中学校さんからの質問でもあった通り一般的な用語ではありません。ZEH は最近流行っている言葉ですが、このテーマを調べることによって学んだもので、それを政策として実現したらどの程度の省エネ効果になるかという、「調べるプロセス」を学べたことは大変貴重なものだったんじゃないかと感銘を受けました。

後攻の宮教大附属中学校さんも、調べたところすごく出ておまして、省エネのベンチマークでクラス分け制度について、専門的な内容を調べていました。ベンチマーク目標について、業界のエネルギー使用量に関する評価に関する指標のことを、調べられていました。このような、知らない分野を調べることは、これからの人生を生きていく中でもすごく価値のある経験になると思いますので、ぜひともこのテーマを通して学んだことをこれからの人生にも生かしていただければと思います。

それでは、中身について話していきたいと思います。試合評価は高得点がついております。これは後ほど発表します。先攻の盛岡中央高等学校附属中学校さんは、どのような現状の問題にフォーカスしたのかというと、家庭由来の CO₂ や空き家問題、この二つにフォーカスしていたと審判は理解しております。この二つの問題を解決するために空き家を利用しつつ、その CO₂ を減らす ZEH を導入しようというプランでした。具体的には何をやるのかというと、ハウスメーカーと協力し、空き家を民泊でも利用できるようにする。そして、これから住む人たち、これから家を建てる人たちが省エネな家を建てることによって CO₂ を削減していくということでした。徐々に ZEH の認知度を上げていき、2030 年までに普及拡大していくものでいた。試算効果は 1000 万 t の CO₂ の削減があるとのことでした。

質疑応答では、後攻の方からこういったような質問や指摘があったかということ、ZEH という単語に関するものでした。また、もう 1 点は、この政策は、空き家に移住するのか新築時を狙うのかという議論で、新築需要を狙

った政策であるというやり取りがあり、日本の一部地域の人が全員移り住むような話ではなく、これから家を建てたい人にターゲットを絞った政策であるということがイメージしやすくなったいい質疑応答でした。

少し惜しかった点ですが、後攻さんの方からあった指摘で、これから家を建てる人は ZEH を知らないから、ZEH について PR した方が良く、という指摘に対して再提案の際にもう少しフォローがあれば、さらにいい再提案になったと思います。先攻の盛岡中央高等学校附属中学校さんの評価は、政策の削減効果は発生しそうであり、空き家問題もある程度解決し、ある程度 CO₂ が削減するという点は、審判や聴衆の方も理解していると思います。

対して後攻の宮教大附属中学校さんの政策は、法人税の減税でした。今回、宮教大付属中さんがフォーカスしたのは企業です。エネルギー消費全体のうち 84% が企業であるため、企業で CO₂ を削減した方が効果的であるというアプローチでした。具体的には、既にあるベンチマーク制度やクラス分け制度を活用して、省エネに対して優秀な企業にインセンティブをつけていくものでした。SS クラスを設けて 5%、S クラスでは 3% 軽減するというもので、1600 万 t CO₂ が年間削減できる効果試算でした。民需で発生する CO₂ よりも、企業で削減した方が効果的であるという価値観を、最初から仰っていましたので、最後の政策比較を意識して練られた政策提案でした。これに対してどういった質問や指摘があったかという点、先攻からはとても良い質疑で、試算に対する質問が行われました。試算の具体的な中身について詳細に問うものです。回答については、具体的な試算方法ではなく、補助金の範囲内で実施するというものであり、もう少し深掘りしてほしいと審判が思うような回答でした。この点をもう少し深掘りしていれば、再提案のタイミングでより深まった議論が展開できたのかなと思います。再提案で具体的な試算方法について仰っていましたが、それを質疑応答の段階でやっていたら、最後の再提案で政策をさらにブラッシュアップすることに時間を使えたと思いますので、そのような部分をさらに意識するとより良い議論になったと思います。レベルの高い議論でしたが、効果試算の数字については、もう少し深掘りが欲しかったです。

また、審判のなかであった指摘として、後攻はコストがかからない政策でありましたが、その政策を実施して、果たして企業が省エネ活動に動くのかという証明、動機づけまでは立証できていないのではないかと指摘がありました。制度は作ったけど果たしてその通りに動いていくのかについては疑問が残るという点を指摘した審判もありました。今既に省エネできるのであれば、現状のクラス分け制度がある時点でインセンティブがあるわけなので、省エネしているのではないかと、というものです。この政策を実施することで、はじめて追加で省エネするという、動機づけの証明があれば尚良かったです。

さて、この議論の勝敗の決め手は、最後の比較の部分になります。先攻と後攻の比較がとても重要な部分であり、コストとパフォーマンスが比較されています。後攻の方から先に比較をしましたが、コストでは、後攻はかからなくて、先攻はリフォームコストがかかる。パフォーマンスの CO₂ 削減効果は 1600 万 t 対 1000 万 t であるというものでした。先攻の方から出された比較内容としては、CO₂ 削減効果に関しては 1000 万 t 対 1600 万 t であり、後攻と同じです。対して大企業だけでなく、民間にも利益があるという内容でした。ここで、さらに一步踏み込んで、先攻さんにさらに主張して欲しかったのが、この民間の利益にアプローチすることが CO₂ 削減効果の数値の差よりも、とても大切なことである。そのようなアプローチが欲しかったです。空き家問題を解決することが、今回のテーマ上でとても重要なことであることがわかると、さらに高い評価となったかと思えます。

今回の議論の総評では、削減量は後攻に分があるものの、効果試算の数値が不透明な政策であり、それ故に票が割れております。チーム評価は、3 対 2 です。審判が 3 票持っており、オンライン投票が 2 票で合計 5 票です。

試合評価は高得点であり、4点になります。結果を申し上げますと、試合評価が4点で、先攻のZEH化を評価した審判が2点入れております。後攻の法人税の減税を評価した審判が3点入れております。合計評価は、先攻6点、後攻7点で、後攻の宮城教育大学附属中学校さんの勝利となります。大変僅差の良い試合でした。ありがとうございました。

● 高校生の部決勝戦解説、結果発表



全国教室ディベート連盟

神永 誠

皆さんこんにちは。決勝戦の主審を担当させていただきました神永と申します。

まずは決勝戦、そして予選2試合を戦われた皆さんお疲れさまでございました。本日最後の試合の講評となります。このような大会を企画してくださった皆さん、参加してくださった皆さんに改めて感謝申し上げたいと思います。最初にもう一度だけ決勝戦に参加した皆さんにお詫びさせてください。決勝戦の進行上の不手際がありましたこと大変申し訳ございませんでした。ご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが人がやるものでございます。十分気をつけてはいるんですが、皆様にご負担をおかけしたこと大変申し訳ございませんでした。

さて、話の中に移っていきたいんですが、いいことは全部先ほどの中学校の主審をされた本田さんに言われてしまいましたので、私自身何を言おうか非常に悩んでいるところでございます。その中で、高校生なので、中学生よりももう一歩進んだ話何かできないかなと思ってここでお話させていただきたいと思います。調べものされていることを十分理解しております。よくそれを皆さんの言葉のものにしようとしているのはわかります。だからこそ言葉の意味をもう一度見直していただきたいなど。言葉の意味であるとか定義。なんとなく省エネと言われたから、みんながイメージする省エネ、大きく外れないけれども、本当に省エネってどういう意味かしらと、省エネルギーとはどういう意味かしらって説明できませんかって言われたときに、ちょっとでも不安がある方は調べなおしてください。ただ、使う電力を減らすことだったり、何かを削ることが省エネではないはずなんですよ。決勝まで戦われた皆さんっていうのはそこはもう気づいていらっしゃると思います。まず言葉の意味、定義、当たり前だと思ってるところをぜひ正しく、自分の言葉を使っていただきたいと思います。

二つ目、言葉の意味なんですけれども、時代とともに意味が変わる言葉というのがあると思います。これ、論題の中にあっただんじやないかなと思っています。例えば、生活の質。1970年代の生活の質と今の生活の質、多分違いますよね。2030年の生活の質も少しずつ変わってくると思います。そんな中、生活の質を落とさないと言われたから、今よりも何かが減っちゃいけないんだって考える必要はないかもしれません。この生活の質が何を意味してるのかっていったことを明確にしてくださいと、皆さんが思ってる生活の質っていうのはこういうものなんだ、これを守りながら省エネできる政策をご提案いただいているんだっていったことがわかりますので、目的がはっきりする。こういったところになってくると思います。目的としてはエネルギーの価格とか状況や供給不安だからここに左右されないで経済活動を守っていきこうっていうところ、生活の質を落とさないようにしようと

いったところですが、この生活の質っていった言葉、時代とともに変わりますし、皆さんが何を思い描いてたかで、私達に伝わることも変わってくるんじゃないかなと、ここを明確にしてくださると、よりパブリック、多くの人の気持ちというか、投票行動を促せたのではないかなと思っています。だから、何を指しているか、それが妥当な提案なのかっていったところを気をつけていただければと思います。

3点目ですけど私、実は本田さんと全く同じことを考えておりました、モチベーションっていう言葉、単純に聞きますよね。なんで人ってそういった動きをするんだらうとといったことをもう一度考えていただきたいです。枠組みを作ったからその通り動くとか、そういうわけではないところもあります。日本にもいっぱい枠組みありますし、この枠組みの中でそうになってないこともいっぱいあります。皆さんのように心が綺麗だと、そういうふうに決めたらみんなそうなるはずって思うかもしれませんが、実はそうじゃない人もいっぱいいる。今回であれば、少しずつ議論の中に入ってきますが、評価項目に追加することによって商品輸送過程のエネルギー消費量の抑制の方に、業者は動いていこうとなるけど、本当にそうなるかしらっていったその部分のモチベーション、なぜそうすると動くんだっていった部分の根源のなる部分を説明してくださると嬉しかったです。一方、バイオマス発電も他があるのになんでバイオマス発電に行くのっていったこと、これ先攻から指摘されてましたよね。ではこのバイオマス発電って今の電力会社がやるのか、それとも違うところが起こす話なのか、代替するってなると電力会社がやるけども、ゴミ処理場の横に土地を電力会社が持つてるかしらとか。そういったところも本当にそういうふうに動いていうモチベーションを示してくれると、なるほどこの政策って本当にそうやってものが動きそうだねっていったところが見えてくると思います。だからディベートというか、人とコミュニケーションをする上で、私は言葉の意味とか定義であったり、モチベーションとといったこと、こういったものを説明してくれるととても伝わるんじゃないかっていうのが、決勝戦に出られた方々に対してより上に行くアドバイスだと思っています。だから皆さん意識していただければと思います。

その上で、商品輸送過程のエネルギー消費量の抑制だよっていった話を、先攻の磐城高校はされていました。輸送管理アプリ、こんなものを作って他の人をマッチングしていくんだ。よりトラックとか要は自動車ですら運んだものを電車を使えるところは電車を使って省エネにしてこう。これ本当にそういうふうに動くのっていう指摘に関しては、後攻めからあってもよかったと思います。こういったものが、電車に切り替えることでCO₂排出量というものは直接的な試算はないけども相関するから変わってくるだろうね、うまくいけばこれぐらい変わるだろうっていう話もあったと思います。その部分に関しては一定の理解をジャッジはしております。それが個人に移っていくかっていったところですよ。エコマーク、エコルールマーク、これをPRしていくんだって話ですけども、さて、人はなぜ、エコのものを買いたいと思うかですよ。その部分に関してやっぱりエコに興味あって素晴らしいって思う人だけじゃないんです。なぜそういうふうに思ってそう動いていくのか、そう変わっていくのかっていった部分を説明してくれると、個人も変わってくる。意識変わったね、変わることによって何がいいんだっけ、といったところの説明まで結びつくと思います。この部分でちょっとジャッジとして捉え方が割れるというか、重さの度合いが変わったところがあります。エコマーク、エコルールマーク、これがどれだけ普及効果があるか、その前にCO₂削減はこれだけあるっていったところに関しては、争いがないところなのかなと思っています。

では、後攻めの話、バイオマス発電で生活に余裕を与えようというお話だったと思います。バイオマス発電、なるほどと思ったけど、一般的かという一般的なじゃないところもあります。皆さん、もう調べものして自分の

脳みそに入ってるからすごい喋れるんですけども、私達、バイオマス発電のプロじゃない、石炭火力発電のプロでもないんですけども。その中でグリーン国債とかすごい環境に即した話があるんですが、実は日本ではまだ一般的じゃなかったりするんで、どんなものかっていったものを簡単に最初に前振りしてくれるとわかりやすいです。何々をこうするもの、いわゆるバイオマス発電、みたいな説明をしてくれると非常にわかりやすいのかなと思います。こういったことを気を付けてくれるとパブリック・ディベートではなお良いと思います。今 20%の再エネがあってその中でバイオマス 3%、これを上げていこう、実用化できるよって言うけれども、なぜここバイオマスに変わっていくのかっていったモチベーションの部分はやっぱりさっき言ったように伝えて欲しかった。ただ、食品ロスを減らす方に行く、こういったものを使って安定的にやろうっていう話だったんですけども。全国のお惣菜屋さんから端材を集めて安定供給するという話があったんですが、それだけだと、安定供給できますというお話には聞こえないんですね。十分だといった説明もやっぱりしてほしいと、本当に足りるのかなっていったところが、まず第 1 段階で人に疑いを持たれてしまう。そうすると、その政策で本当にできるのって思われたら不利になってしまう。だからこそ、そういう根幹の部分の部分を固めてくれるとよかったのかな。ただ、よくよく調べていて、小規模の処理場に関しては、1 ヘクタールで苦小牧で実際のものがあるよ。一方で、こんな都心で 100 かけ 100 の土地なんて取れるのって言うと、確かに取れるかなと思ったりもします。わからないな、取れないともちょっとわからないですし、取れるとも言えないなと。ただ電力がたくさん必要なところっていうのは、やはり都心部で人が多いところだと思います。そういったところでこれが実現可能で切り替わって行って、しかもいいことなんだよっていう話になるかっていうとその部分まで説明がちょっと足りなかった部分あるかなと。ただ土地があるところでゴミ処理場の横に土地があるところでこういったバイオマス発電はできるのではないかというお話だったと思います。結果として 1000 ヶ所作れたら 360 億 kW 作れますし、3%から 7.2%にバイオマス上がりますよというお話でしたが、この再エネ、他でもできるのにバイオマスである必要っていうのはやはり説明をちゃんとしてくれないと、疑問を持たれた状況になってしまうと。その状況だと、この部分をどう納得しよう、どうやったらこれを肯定できるかなってジャッジは見るんですけども、このバイオマスをやりたいっていうところに関してはできるっていうこと、できそうだっていったところまではわかるんですけど、やった結果、何がいいのかっていったところは、もうひと押ししてくれた方が、多くの方があなたの方を向いてくれたと思います。というのが、このディベートの試合の見方として、私達が、3 人のジャッジが見たところですし、YouTube をご覧になった方の投票 30 票あったらしいんですが、その中の方たちもそういう目線で見てくださいだったのかなと私自身思っています。だから言葉を大切に、本当に物事が動くのかってことを考えてくださると政策について考えられるようになると思いますし、若い皆さんが電力とか環境とか重要なことについて興味を持って調べていただき、この大会に出てくださったことというのが大変嬉しいというか。負けてられないなと、私達も頑張らなきゃいけないなと思った次第でございます。まずはいい試合をありがとうございました。

ここから結果です。試合点についてはいい試合でした。さすが決勝までお越しになる両校であったと思います。聞きやすかったです。ただ、もっともっと深められるところもあったなっていうのは正直思ったところもありますが、試合結果の試合の評価点としては 4 点をジャッジはつけております。3 人のジャッジとオーディエンス票が 2 票、オーディエンスの投票が多かった方に 2 票入っています。だから合計 5 票でございます。なので、5 票がどういうふうに配分されたかといいますと、それぞれの部分で割れたところはあるといったところですが、ジャッジ 3 人と YouTube の投票 2 票は、今回先攻の福島県立磐城高校に投票されました。結果として優勝、福島県

立磐城高等学校、準優勝秋田県立秋田西高等学校でございます。

講評お付き合いいただきありがとうございました。両チームの皆さんおめでとうございます。

●省エネ政策提案賞発表



東北経済産業局 総合エネルギー広報室
室長 中野 かおり

ただいまご紹介いただきました本コンテストの主催をしております東北経産局総合エネルギー広報室長の中野と申します。中学校5校、それから高等学校6校の皆さん、この省エネディベートコンテストご参加いただきまして本当にありがとうございました。学校の授業や行事の時間の合間に各種データの集め方それから分析、政策の検討大変だったと思います。事前に私達経産局の方から具体的に提案をするにあたって、どんな方法を使うのか、どうしたら効果的になるのか、誰がどんな予算を使ってどんな根拠を持って検討していったらいいかといったところですね。より考えていただければ、提案と議論がより良いものになるのではないかということで助言をさせていただいております。どの学校の皆さんもこの内容を真剣に受け止めていただきまして、様々な工夫と準備をして本日臨んでいただきまして本当にありがとうございました。その取り組みのまっすぐな姿勢と、それから意欲とても素晴らしいものだと感じました。皆さんに感謝をさせていただきたいと思います。

それではここで省エネ政策提案賞ということで発表をさせていただきたいと思います。この賞のポイントとしたしましては政策提案の内容に関する着眼点、それから実現の可能性、政策効果の3項目において評価をさせていただいております。それではまず中学生の部です。中学生の部におかれましては福島県立ふたば未来学園中学校の皆さんです。おめでとうございます。今回の提案につきましては自家用車による石油消費量の削減をもとにしながら、東北ならではの視点でしょうかね、地域性にもよりますけれども、移動困難な方々をも支援するといったことで、ライドシェアをしながら、エネルギー消費量の削減と生活利便性の向上、この二つの観点を評価させていただいたところであります。また多くの方々が参加できる効果的な内容であるということも期待できるということで、評価をさせていただきました。おめでとうございます。

続きまして高校の部になります。高校の部につきましては古川学園高等学校の皆さんです。おめでとうございます。こちらの提案につきましては、電気料金高騰や電力逼迫、こういった現状の中で、国民の皆さんがより節電の意識を高めていくために電気使用量をはじめとした節電方法であったり、エコ商品推進する様々な自治体の取り組みといったものを各種関連事業を可視化して、アプリを活用しながら周知を発信を強化していくといった省エネ活動の活発化に繋がる着眼点が良かったということで評価をさせていただいております。また実現性の可能性も高く、より多くの国民の方々が取り組むことによる波及効果も期待できるということで賞をお受けいただきたいと思います。

今回皆さんが非常にたくさんの勉強をしていただいたと思いますけれども。私達の生活に全く欠かすことので

きないこのエネルギーといったこの分野については、これから皆さんが将来に向けて一層しっかりと考えて大事にしていかなければならない大きなテーマであります。これをきっかけに今後もこの分野についてしっかり学ばれていくことを期待したいと思っております。本日はありがとうございました。お疲れさまでした。

表彰式

●表彰式



事務局003	司会	東北経済産業局 阿部	審判 田中	江間史明
 盛岡中央高等学校附属中学校	審判 林康碩	八戸聖ウルスラ学院	東北経済産業局 戸浪	審判 神永
審判: 遠藤彰久	審判 内宮	審判 本田	東北学院高等学校	 秋田県立秋田西高等学校
 宮教大附属中	 福島県立磐城高等学校	東北学院中学校	審判 佐藤英徳	審判 加納
 古川学園高校	八戸工業大学第二高等...	岩手県立岩泉高等学校	審判 中野	 審判 杉山 佳弘 +5



中学生の部 優勝 宮城教育大学附属中学校



中学生の部 準優勝 盛岡中央高等学校附属中学校



中学生の部 省エネ政策提案賞 福島県立ふたば未来学園中学校



高校生の部 優勝 福島県立磐城高等学校



高校生の部 準優勝 秋田県立秋田西高等学校



高校生の部 省エネ政策提案賞 古川学園高等学校

閉会挨拶



大会実行委員長
山形大学大学院 教育実践研究科
教授 江間 史明

それでは、最後に私から閉会の挨拶を申し上げたいと思います。

本日は本当にお疲れ様でした。ディベートは1人ではできません。必ず相手のチームと、それから審判の人が必要です。今日の大会を通じて、自分の議論が相手に届いた。そういう手応えを得られた経験があったと思います。一方、もっとこう言えばよかった。ここが大事だったのか…。と新たに気づいた経験も本日の試合の中であったのではないかと思います。ディベートはもちろん勝ち負けはありますが、勝っても負けてもそこから学ぶことがたくさんあるものです。ぜひ、今日の試合で気がついたことを次に活かしていただければ、大会主催者として大変嬉しく思います。

本日の政策型パブリック・ディベートコンテストお疲れさまでした。それではこれで本日の大会を終了したいと思います。どうもお疲れさまでした。

アンケートの集計結果

出場選手のアンケート集計結果①

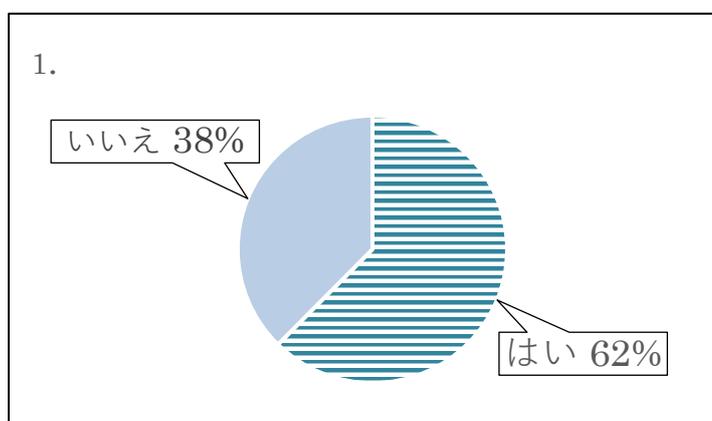
出場選手アンケート結果とりまとめ【選択肢編】

構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

	人数	回答数	回答率(%)
中学生	24	8	33
高校生	37	24	65
合計	61	32	52

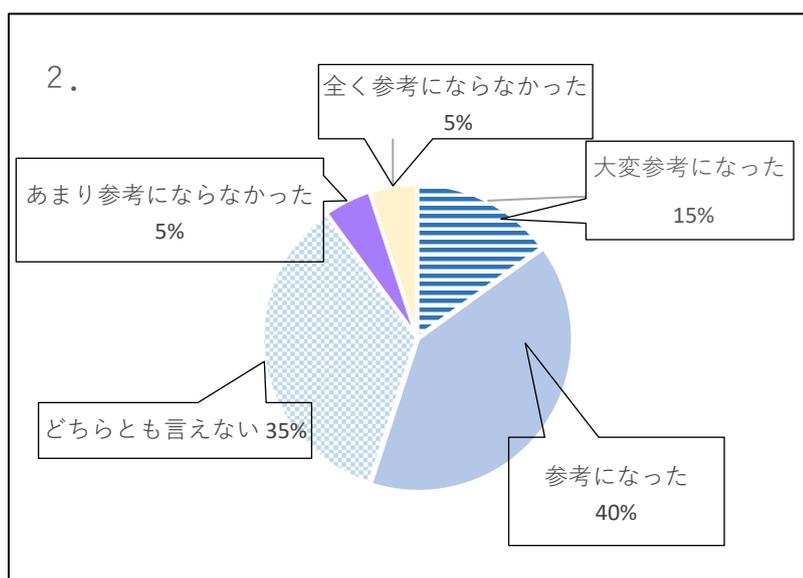
1. 第1回勉強会（9月18日）に参加または動画を視聴しましたか

選択項目	回答数	%
はい	20	63
いいえ	12	38



2. (1. で「はい」と回答した人に) 第1回勉強会（日本のエネルギー、省エネ政策）は政策提案等の参考になりましたか

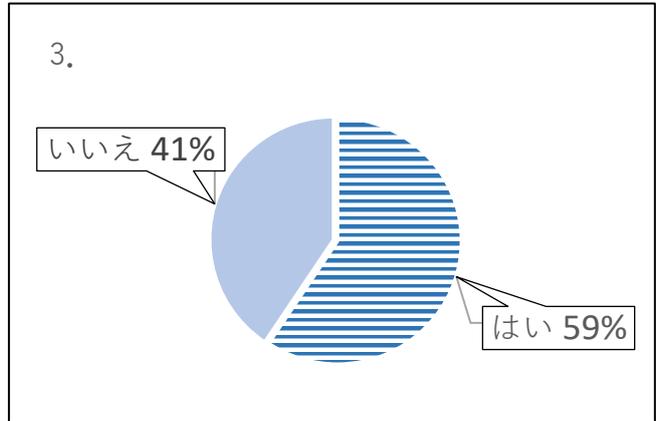
選択項目	回答数	%
大変参考になった	3	15
参考になった	8	40
どちらとも言えない	7	35
あまり参考にならなかった	1	5
全く参考にならなかった	1	5



出場選手のアンケート集計結果②

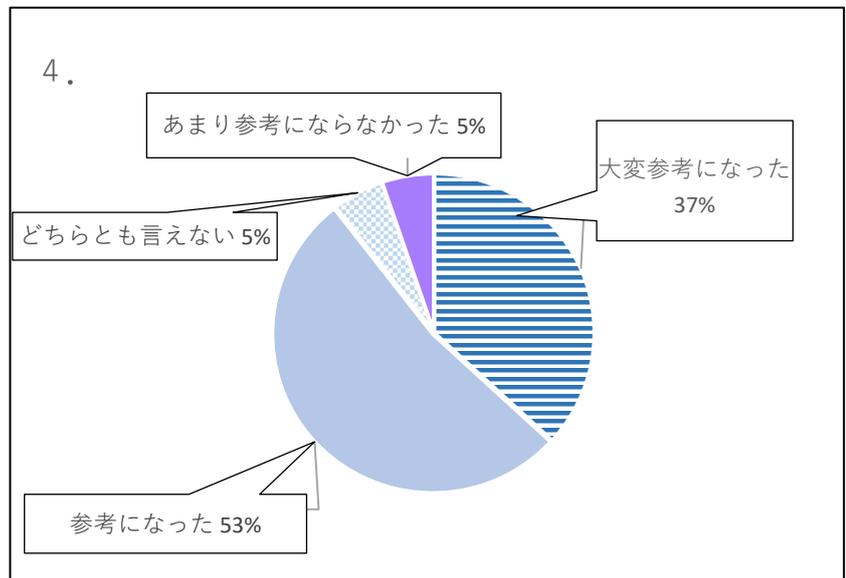
3. 第2回勉強会（12月11日）に参加または動画を視聴しましたか

選択項目	回答数	%
はい	19	59
いいえ	13	41



4. (3. で「はい」と回答した人に) 第2回勉強会（政策提案のチェックポイント、ディベートの表現方法）は政策提案等参考になりましたか

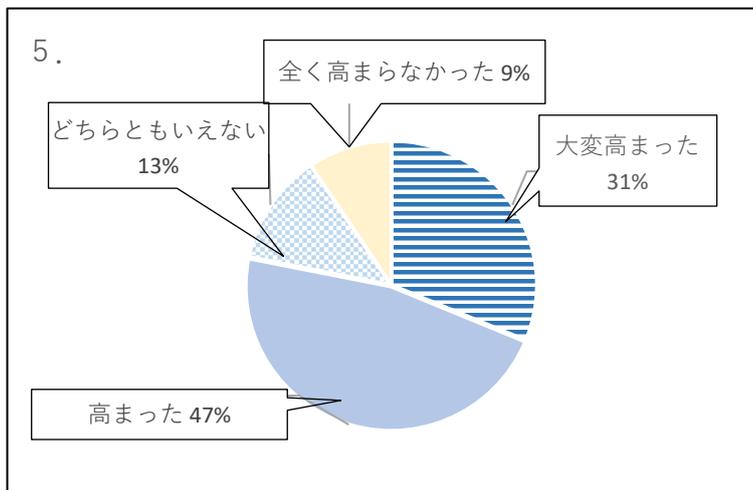
選択項目	回答数	%
大変参考になった	7	37
参考になった	10	53
どちらとも言えない	1	5
あまり参考にならなかった	1	5
全く参考にならなかった	0	0



出場選手のアンケート集計結果③

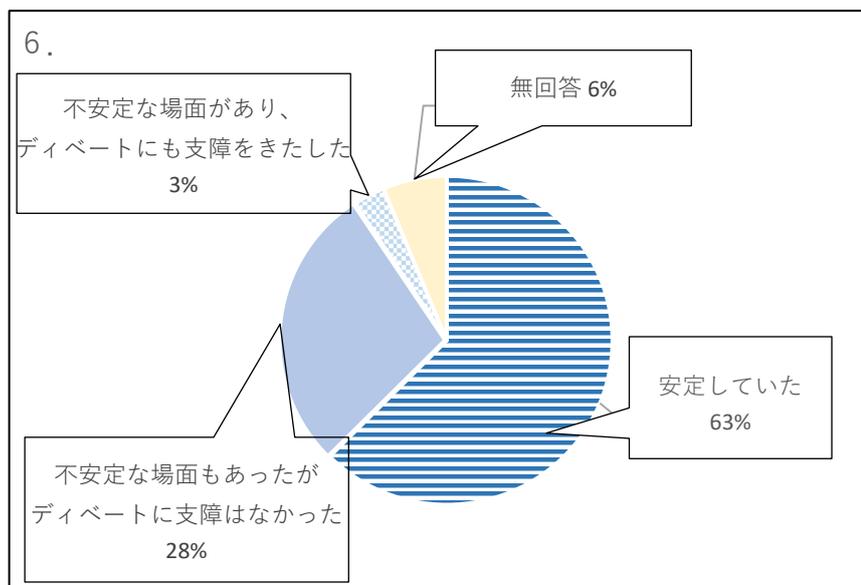
5. 省エネルギーへの関心は高まりましたか

選択項目	回答数	%
大変高まった	10	31
高まった	15	47
どちらともいえない	4	13
あまり高まらなかった	0	0
全く高まらなかった	3	9



6. 本大会での通信状況について教えてください

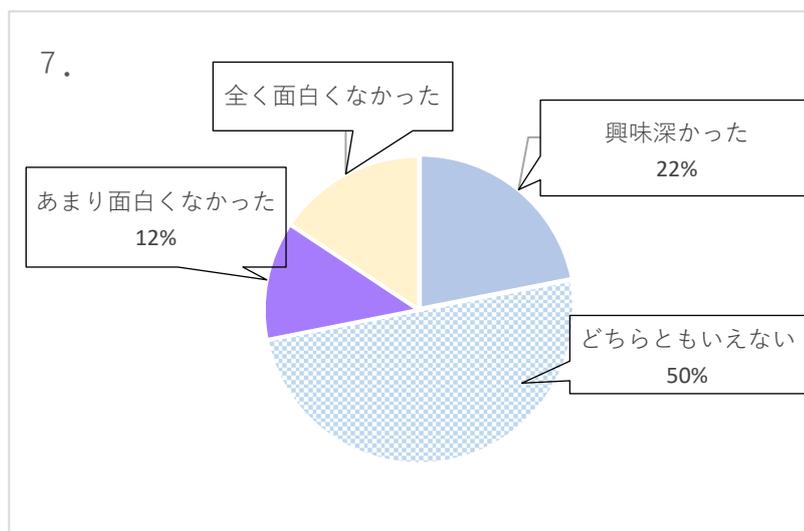
選択項目	回答数	%
安定していた	20	63
不安定な場面もあったが ディベートに支障はなかつた	9	28
不安定な場面があり、 ディベートにも支障をきたした	1	3
ディベートできないほど 不安定だった	0	0
無回答	2	6



出場選手のアンケート集計結果④

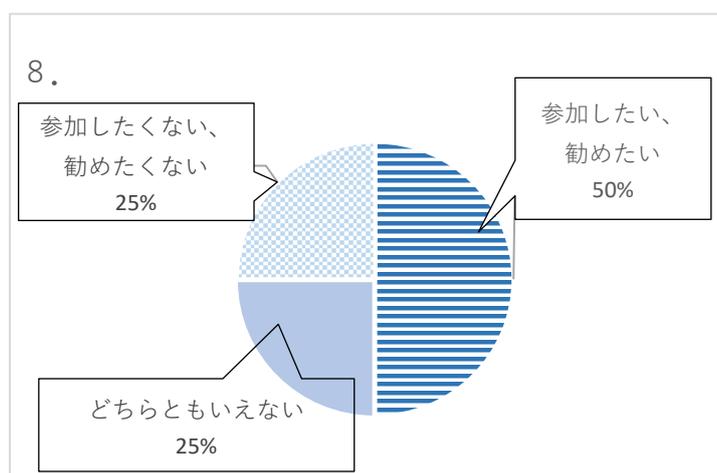
7. 待ち時間でのエネルギークイズについて感想をお聞かせください

選択項目	回答数	%
大変興味深かった	0	0
興味深かった	7	22
どちらともいえない	16	50
あまり面白くなかった	4	13
全く面白くなかった	5	16



8. 次回も参加したいと感じましたか？または後輩に勧めたいと思いましたか

選択項目	回答数	%
参加したい、勧めたい	16	50
どちらともいえない	8	25
参加したくない、勧めたくない	8	25



引率者のアンケート集計結果①

引率者アンケート結果とりまとめ【選択肢編】

構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

	人数	回答数	回答率 (%)
引率者	10	8	80

1. 第1回勉強会（9月18日）に参加または動画を視聴しましたか

選択項目	回答数	%
はい	3	38
いいえ	5	63

2. (1. で「はい」と回答した人に)

第1回勉強会（日本のエネルギー、省エネ政策）は政策提案等の参考になりましたか

選択項目	回答数	%
大変参考になった	1	33
参考になった	2	67
どちらともいえない	0	0
あまり参考にならなかった	0	0
全く参考にならなかった	0	0

3. 第2回勉強会（12月11日）に参加または動画を視聴しましたか

選択項目	回答数	%
はい	7	88
いいえ	1	13

引率者のアンケート集計結果②

4. (3. で「はい」と回答した人に)

第2回勉強会（政策提案のチェックポイント、ディベートの表現方法）は政策提案等参考になりましたか

選択項目	回答数	%
大変参考になった	3	43
参考になった	3	43
どちらともいえない	0	0
あまり参考にならなかった	1	14
全く参考にならなかった	0	0

5. 本大会で使用した回線を教えてください

選択項目	回答数	%
自前の Wi-Fi もしくは有線 LAN	7	88
事務局から貸与されたモバイル Wi-Fi ルーター	1	13

6. 本大会での通信状況について教えてください

選択項目	回答数	%
安定していた	7	88
不安定な場面もあったがディベートに支障はなかった	1	13
不安定な場面があり、ディベートにも支障をきたした	0	0
ディベートができないほど不安定だった	0	0

7. 待ち時間でのエネルギークイズについて感想をお聞かせください

選択項目	回答数	%
大変興味深かった	1	13
興味深かった	3	38
どちらともいえない	1	13
あまり面白くなかった	1	13
全く面白くなかった	1	13
無回答	1	13

引率者のアンケート集計結果③

8. 引率者の方は次回も学生に参加を勧めたいと思いましたが

選択項目	回答数	%
参加したい、勧めたい	6	75
どちらともいえない	2	25
参加したくない、勧めたくない	0	0

審判員のアンケート集計結果①

審判員アンケート結果とりまとめ【選択肢編】

構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

	人数	回答数	回答率 (%)
審判員※	7	7	100

※実行委員・局審判員を除く

1. 第4回大会の方針について（テーマ設定、ルールの変更、事前オリエンテーション、審判の心得等）、お気づきの点があれば、お教えてください。(FA)

2回のオリエンテーションがあったために、よく理解して本番に臨むことができよかった

テーマについては、例年と比較すると若干難易度が上がったと感じたものの、学生たちの提案を見ると、難しいながらも一生懸命調べて提案してくれた様子が見られたため、タイムリーな内容を学習する機会としても、良かったと思います。審判員オリエンテーションについても、局内外問わず事前にオリエンテーション（レク）をすることで、より余裕をもって大会に臨めると思うので、来年度もぜひ実施していただければと思います。審判の心得も、自身の役割が明確にわかり、少しばかりであったとしても意識の向上が図れたのではないかと思うので、来年度はさらに改良していきながらも活用していただければ良いかと思われまます。

参加校が再エネの促進などテーマにするなど省エネの政策提案について十分理解していないと見受けられるケースがあった。

大会の論題について、

審判からすると1つの大会でしかも予備知識がない中、短時間でいくつもの異なる政策を検討することになり、ディベート慣れしている方でもかなり苦労されると思います。

少し論題のテーマ又は政策領域を絞っての論題とすることをご提案します。

生徒向けとしては、どのような政策提案がモデルとなるか、大会後でもいいので、東北経済産業局の方から政策提案の提示があるとさらに生徒の理解が深まると思いました。

生徒は政策は考えつくかも知れませんが、中学生では特にどのように政策が作られるか、どのように政策を実行に移すかという部分は分からないことがあると思いますので、そんな解説があっても良いかと思ひます。

学生の工夫が表れるようなテーマ設定であったように思う。

審判員のアンケート集計結果②

2. 会当日の運営について（全体的な大会の流れなど）、お気づきの点があれば、お教えてください。(FA)

特にありません。問題なくスムーズだったと思います。

大会当日は特に通信トラブルも無く、無事に終了したのが本当に良かったと思います。改善すべきと思った点は特にありませんでしたが、強いて挙げるなら、中学生の第2試合中、他の審判は昼休憩となるわけですが、その時の声のボリュームが少し気になりました。昨年度までは一斉に昼休憩があったと思いますが、今年は休憩中もどこかしらで試合が行われているため、その旨を会場内の方へは一言あっても良かったかなと思いました。

素晴らしい運営でした。

論点店明示と再提案において、後攻チームが先になっており、後攻チームの検討時間が先攻に比べて短いのではないかと感じた。

運営はスムーズに進行されていたと感じた。

審判員について、勝敗を決する際に重視する点が政策面なのか、ディベート面なのか統一されていなかったように感じた。

審判が司会を兼務するとミスが起こることがあるため、司会役の方がいた方が良いと思います。

決勝戦での進行の遅れに伴う時間変更等、その場で判断される方から審判への伝達事項を決めてお伝えいただけると助かります。

3. その他、今後の大会に向けてお気づきの点（良かった点や改善点）があれば、お教えてください。(FA)

全体的にスムーズだったと思います！

通信トラブルがあった際のリカバリー方法や、奇数校出場、8校以下の参加等、これまでの大会運営をさらにブラッシュアップさせられるような大会だったと感じます。詳細まで気を配られたからこそ、あまりトラブルの生じない本大会だったと思いますが、資料が多すぎて若干大変そうな印象も、各審判員の方から見受けられました。

PCの他にディスプレイを用意頂くと電子で資料広げられて良いと思います

省エネのテーマに沿って（実現不可能なものも含み）若者が考える思い切った政策提案を期待したい。そのためには、事務局が国が進める省エネとは何かを多くの学校にインプットし、議論を広め、若者が考える機会を増やしたい。参加校の

大会の開催、お疲れ様でございました。開催まで多大なご苦労があったこと理解しております。

審判同士でも初対面の方がいるため、名札シール(審判か、経済産業局か運営の方か)で色分けだけでもして下さると当日のオフラインの参加の人は助かると思います。

報道

岩手日報掲載 令和5年1月7日 1面

岩手日報掲載 令和5年1月7日 20面

20 省エネ討論 東北大会に挑む



- 2 口軍、一方的停戦入り
- 4 冬の津波避難へ事例集作成
- 9 企画「80億人の旋律」
- 13 一関修紅 8強あと一步
- 17 広まれ 古里描いた作品
- 23 肥満防止の給食最高賞
- 25 南極で光と氷の三重奏

今日の紙面

省エネ討論 挑む東北大会



省エネをテーマにした「エネルギー」コンテストに出場する岩泉高校の2年生

岩泉高2年生グループ

本県岩泉高校の2年生が、1月7日、東北大会に出場する。この大会は、省エネをテーマにしたコンテストで、各校から出場する学生が、省エネに関するアイデアを発表し、審査を受ける。岩泉高校からは、2年生のグループが出場する。このグループは、省エネに関するアイデアを発表し、審査を受ける。この大会は、省エネをテーマにしたコンテストで、各校から出場する学生が、省エネに関するアイデアを発表し、審査を受ける。

林業生かす政策提案へ あす対戦

岩泉高校の2年生が、1月8日、東北大会に出場する。この大会は、省エネをテーマにしたコンテストで、各校から出場する学生が、省エネに関するアイデアを発表し、審査を受ける。岩泉高校からは、2年生のグループが出場する。このグループは、省エネに関するアイデアを発表し、審査を受ける。この大会は、省エネをテーマにしたコンテストで、各校から出場する学生が、省エネに関するアイデアを発表し、審査を受ける。

その他

福島民報	令和5年1月30日	12面
福島民友新聞	令和5年1月18日	8面
秋田魁新聞	令和5年1月20日	4面

**第4回省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト
資料集**

政策提案型パブリック・ディベート・ルール①

2015年12月8日・日本パブリック・ディベート協会制定
 2017年11月7日 省エネ政策提案型ディベート・コンテスト実行委員会制定
 2018年11月28日 パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2019年7月21日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2020年8月22日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2021年8月28日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2021年12月12日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2022年8月5日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定

政策提案型パブリック・ディベート・ルール

1. 目的

政策提案型パブリック・ディベートは、一般市民にも聴き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論することを主旨とする。

このようなディベートを行うことで、市民として資源・エネルギー・環境問題等の社会問題について考察を深め、関心を広げる場とすることを目的とする。

2. 参加者と運営

(1) 試合はチームで対戦する。1チームはディベーター2～10名の構成とする。各ディベーターは1つの大会の予選試合において、1試合は出場しなければならない。1つの試合に出場するメンバーは、スピーチ（質疑応答も含め）を最低1回は行うものとし、各ステージの担当は、1名ないし2名とする。

なお、出場するメンバーの確認は、原則として主催が行うものとする。

(2) 試合は司会者が進行し、計時係が計時する。試合は複数の審判が評価と判定を行い、審判の代表者は、試合終了後に講評を述べる。

3. 政策提案と討論

(1) 社会的問題と政策提案

資源・エネルギー・環境問題等の社会的問題を取り上げ、議論する。各チームは政策を求め問いに応じて、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論する。

(2) 討論の形式と時間

ディベートは、以下の形式及び時間によって展開する。

	【主体】	【内容】	【時間】
ステージ1	先行	先行チームの政策提案	4分間
		後攻チーム準備時間	2分間
ステージ2	後攻	先攻チームの政策に対する質疑・意見交換	5分間
ステージ3	後攻	後攻チームの政策提案	4分間
		先攻チームの準備時間	2分間
ステージ4	先行	後攻チームの政策に対する質疑・意見交換	5分間
		再提案の準備時間	5分間

政策提案型パブリック・ディベート・ルール②

ステージ5	後攻	後攻チーム再提案	4分間
ステージ6	先行	先行チーム再提案	4分間

4. 勝敗の判定と順位の設定

- (1) 評価及び勝敗の判定を行う審判は、ディベート経験者だけでなく未経験者も参加する。
 (2) 評価は、第1に試合全体を評価する「試合評価」、第2に試合の質を高めるための貢献度ともいえる「チーム評価」の2点で行う。また、2つの評価による評点を合計して、その試合におけるチームの成績得点とし、その点数が高いチームの勝利とする。

- ① 試合評価は、両チームによる討論の全体を対象に、5段階で行う。平均的な場合を評点3、優れている場合は評点4、非常に優れている場合を評点5とする。一方、劣っている場合は評点2、評点1へと減じる。

この評点を決定する観点には、以下の4つである。評点は、複数の審判が協議して決定する。

- ア 両チームのスピーチが声量や速度、話し方に配慮して聞き手に聞き取りやすく、分かりやすいものになっていること。
- イ 両チームの議論が対立しながらも協調し考察を深めようとしていること。
- ウ 両チームの議論が重要な論点に集中し、内容に広がりや深まりが認められること。
- エ 両チームの議論がいずれも、具体的な根拠に支えられた結論を主張していること。

- ② チーム評価は、以下の4つの観点で、政策提案を比較する。審判は、より優れた提案であると評価したチームに投票する。複数（奇数）の審判が投票し、1票を評点1として、合計点数を当該チームの評点とする。

- ア 論題に対して、以下の点を満たしながら、実行可能で効果的な政策を具体的に提案していること。
 - a 客観的な文献や資料等をもとにしながら、探究しようとする課題に関する現状の問題を分析していること。
 - b 政策を支える大事な理念や価値観を明確に示していること。
 - c 具体的な根拠を示しながら、現状の問題を解決するために必要な政策の導入理由や政策の効果も示していること。
- イ 積極的に質疑と意見交換を行い、重要な論点を指摘していること。
- ウ 重要な論点に応じて自らの政策に改善を加え、再提案した政策が根拠とともに述べられ、それが相手チームの政策よりも優れたものになっていること。
- エ 質疑や意見交換の際、相手の主張の要点を引用しながら、かみ合ったやり取りをしようとしていること。

(3) 順位の設定

- ① 中学の部、高校の部に分かれて、対戦する。
- ② 決勝進出チームの選抜などのために順位を決定する場合は、第1に成績得点の合計数、第2に勝利数を基準とする。それでも同順位のチームがある場合は、抽選による。
- ③ 決勝戦を行う場合は、審査員3名及びオンライン会場の観戦者の得票数の合計により、優勝・準優勝を決める。持ち点は、審査員は各1点（合計3点）をいずれかに付与、

オンライン会場の観戦者分は得票数が多いチームに2点を付与することとし、合計5点で決定する。オンライン会場の票が同数となった場合は、それぞれのチームに1点を付与する。

5. 反則

本ルールに反する次の行為を反則とし、その程度に応じて該当チームにペナルティーを課す。

- (1) 各審判は下記(3)に規定する各種の反則行為に対し、注意や制止をしたり、試合評価またはチーム評価の評点を減点したりすることができる。
- (2) 上記(1)に規定する反則行為への対処・処分は、選手からの指摘の有無に拘わらず、主審独自の判断によって行うことができる。
- (3) 次のいずれかの行為があったときは反則として、悪質な場合、主審の判断でその試合を敗戦にすることがある。
 - ① スピーチ中の選手に対して、他の選手が口頭でアドバイスをを行ったとき。
 - ② 私語等により、スピーチの聞き取りを妨げる行為を行ったとき。
 - ③ 選手等が司会者や審判の指示に従わず、試合の継続が困難と判断されるとき。
 - ④ 選手が、試合中にチームの選手以外の者と相談をしたとき。
 - ⑤ その他、試合中、選手に著しくマナーに反する行為があったとき。
- (4) 上記(3)のいずれかの反則行為があったと判断される場合、出場選手は試合中に主審に申し出ることができる。その際、主審は相手チームのどの行為が、どの反則行為に該当するのかを明示しなければならない。また、主審の判断でその試合を失格にすることがある。

2015年12月8日・日本パブリック・ディベート協会制定
 2017年11月7日 省エネ政策提案型ディベート・コンテスト実行委員会制定
 2018年11月28日 パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2019年7月21日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2020年8月22日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2021年8月28日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
 2022年7月3日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定

政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン

1. 目的について

これまでのディベートは、論証を重視するため、専門的文献から根拠を引用し、スピーチの量が多くなる傾向にあった。そのため、限られた時間内にスピーチをおさめるために早口になることもあり、結果として、ディベートの知識や経験のない者には、聞き取ることや理解することが難しいものになっていた。

そこで、パブリック・ディベートは、一般市民にも、聞き取りやすく、理解が容易なディベート手法に転換する。専門家を真似るのではなく、市民として必要な議論を行う。専門的文献の引用ばかりでなく、具体的な根拠（先進事例や体験事例等）を重視することが必要である。そうすることで詳細に記録しなくても、記憶に残るスピーチになる。

専門家だけでなく、社会を形成する一員としての市民の立場から、理想的な社会像を描くとともに、現状を考慮して日本政府や地方自治体等が採用すべき新たな公共の政策を考え、議論することよ。そうすることが、民主的な社会における市民的な実践行動の1つになるからである。従って、わたしたちも可能な範囲で具体的に政策を提案し、多様な可能性を楽しみ、未来の社会の建設に向けて積極的な議論を行っていこう。

このような市民の議論としてのパブリック・ディベート理念を共有し、ディベート大会を超えて、現実的な社会的議論への積極的な参加へと向かってほしい。

2. 各ステージのスピーチについて

(1) スピーチを行う者の責務について

各ステージにおけるスピーチは、いずれもコミュニケーションとして、聞き手である審判、相手チームのメンバー、及び聴衆の反応に即して行うようにする。聞き手がうなずいたり、メモを取ったりなどする様子を確認しながら、それらに応じてスピーチを展開しなければならない。聞き手がスピーチに集中して理解を深められるように導くことは、スピーチを行う者の責務である。

(2) 政策提案について

次のような構成が考えられる。

【手順】	【内容】
①	ロードマップ 何をいくつ、どのような順序で述べるかと言う構成を知らせること

¹ ある与えられた判断が真であることを妥当な論が成り立つ根拠をあげて推理すること。

政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン②

②	問題の現状分析	政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状を分析すること
③	基本的な立場	提案する政策を支える理念や価値観(理想的な社会像)を明確に述べること
④	主張	具体的な根拠を示して、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策の内容と理由を具体的に述べること
⑤	政策の計画と効果	政策を実現するための計画と生まれる効果を述べること
⑥	内容の確認	政策提案を振り返り、重要な内容を強調すること

(3) 質疑と意見交換について

次の①～③の順序で1つのまとまりとし、複数回の質疑と意見交換を行うことが考えられる。

【手順】	【内容】	
①	質疑	相手チームの提案する政策について、その政策を必要とする具体的な根拠や政策効果が確実に発生するか等について質問を行い、回答を得ること。
②	意見	質問したチームが相手チームの回答に即して、建設的な改善意見を述べること。
③	応答	質問したチームが述べた改善意見に応じて、相手チームが応答すること。その際、相手チームは、試合全体の議論を高めるために、相手チームの意見を受け入れるか、部分的に受け入れるか、意見を受け入れないのか、のいずれかを選択し、その理由を述べること。
④	内容の確認	質疑及び意見交換を振り返り、重要な内容を強調すること。

(4) 論点明示と政策の再提案について

次のような構成が考えられる。

【手順】	【内容】	
①	質疑と意見交換の確認	当初の政策提案についての質疑と意見交換を振り返ること
②	論点明示	①に置いて明らかになった意見の違いや対立点を論点として明確に示すこと
③	政策の再提案	論点の重要性に応じて、当初の政策を改善して再び提案すること
④	政策の重要度の明示	両チームの現状分析に立ち戻り、再提案した政策が相手チームの政策により重要であることの理由を示すこと
⑤	挨拶	相手チーム及び審判、聴衆に対する謝辞

3. 議論と論点について

政策提案、意見交換、政策再提案のスピーチは、いずれも議論でなければならない。議論と

は、何らかの根拠に基づいて結論を主張することである。根拠があつてはじめて審判や聴衆は同意できる。根拠には具体的事実（先進事例や体験事例等）や、専門家の見解、統計データ等がある。また、抽象的で論理的なルールや原理も根拠となりうる。

政策提案の場合は、自ら提案する政策を採用すべきことが結論で、その正当化を明らかにする具体的事実や専門家の見解、統計データ、あるいは抽象的で論理的なルールや原理が根拠となる。

意見交換の場合は、相手チームの政策に改善が必要であることを結論に、その正当化のための根拠を述べることになる。

論点とは、相互に提案した政策の意見交換で、明らかになった意見の違いや対立の中心となる問題である。それは、試合の議論の焦点となる重要な問題であり、自らが提案する政策を改善する指針となるものでもある。試合でとりあげた論点が不明確だったり、それほど重要でなかったりする場合は、政策の改善は小さくなるため、的確に論点を取り出すように努めてほしい。

4. 評価と判定について（対戦相手が互いに力を引き出し合うこと）

予選順位を決定する得点は、試合評価の評点とチーム評価の評点を合計して得られる。例えば、ある試合は試合評価2点、勝利チームのチーム評価3点で、得点は5点だった。一方、別の試合は試合評価5点、敗戦チームのチーム評価1点で、得点は6点だった。つまり、試合評価が低い勝利チームは試合に勝っても、試合評価の高い敗戦チームよりも成績得点は低くなる。

従って、試合評価は、対戦する両チームによる試合の「質」の向上を強く求める。そもそも議論は、対戦する両チームの間に成立する。対戦するチームの一方だけで成立するものではない。相手チームの政策提案があればこそ意見交換ができるし、政策の改善は相手チームの意見を含み込んで可能となる。そのため、両チームが互いに力を引き出し、望ましい議論を展開するように、試合の質を高めるべきである。

何より、社会の問題を解決する政策に正解はないことを強く自覚してほしい。どのような政策も、程度の違いはあるが、問題解決の効果と新たな別の問題を生むからである。一定水準以上の複数の政策を比べると、いずれか1つの政策が正しいなどは断定できない。そのため、問題解決の困難と曖昧な状況に耐えながら、議論を継続することが求められるのである。

これまで述べてきたことからすれば、各チームは2つの戦略を持って試合に臨むことを期待する。第1に試合の質を高める戦略、第2に勝利を得るための戦略である。

5. 表現と態度について

(1) 声の大きさや速さについて

ディベート未経験者にも好感を与えるように、聞き手（相手チーム、審判、聴衆）を強く意識しなければならない。適切な声の大きさや発音を配慮し、聞き手に向かって、目や表情でも語りかけるようにしてほしい。また、スピーチのスピードは、1分間に300～400字程度とすることが望ましい。ゆっくり話すには、内容を絞り込み、構造の明確なスピーチを準備することが前提となる。

(2) 政策提案の際の掲示物について

政策提案の時に、パワーポイント1枚程度を用いて、イラストや図を審判や聴衆に示し

て説明することができる。

(3) ナンバリングとラベリングについて

内容をよりよく伝えるために、ナンバリング、ラベリングを行うようにする。前者は、スピーチの内容をいくつかに分け、その順序や数量を伝えることである。また、後者はいくつかに分けたスピーチの内容に、それぞれ見出しの言葉を付すことである。いくつかの内容があり、何番目の何についてスピーチをしているのかを明らかにし、審判や聴衆に内容を正確に受け止めてもらえるようにしたい。

(4) 質問と意見の対応関係の明示と引用について

質疑と意見交換を行う場合は、相手チームの政策のどの部分に対する質問、意見であるのかを聞き手に知らせて述べなければならない。また、相手チームの発言を部分的に引用して、質問、意見を述べるべきである。すなわち、それらの対応関係が明確であれば、質問及び意見の内容を正確に聴き取り、理解することを相手チームと審判、及び聴衆に対して期待できるのである。

また、互いの政策をすぐれたものに改善することが求められる。一方的に質問し、意見を述べるのではなく、相手チームにも十分な応答の機会を与えなければならない。

(5) マナーについて

審判はもちろんのこと、相手チーム及び聴衆を尊重し、マナーよく接するように心がけてほしい。なぜなら、ディベートは自分一人では、あるいは自分たちのチームだけでは、できないことだからである。審判、相手チーム、聴衆等の他者を欠いては、ディベートは成り立たないのである。

(6) 対立と協調について

そもそも、「勝利至上主義」に意味がない。伝統的なディベートは、早口で多数の議論を述べて相手チームが時間内に反論できないようにし、勝利を得ようとする戦術が認められる場合がある。相手チームからの反論がない事実を根拠に、自らの議論を正当化するのである。そこでは、自らの議論を検証する機会を失い、それは粗雑なものにとどまる。

一方、政策提案型パブリック・ディベートでは、相互に提案する政策をすぐれたものにするため、建設的な意見交換を行うことになる。そのため、相手チームには十分な検証の機会を与えるべきである。相手チームによる厳しい検証に耐えてこそ、誰もが認め得る議論へと成長する。だから、数少ない重要な議論をわかりやすく述べて、相手チームにとって検証が容易になるようにしたい。

また、相手チームの議論が不十分であれば、その不足を補うように、支援する意見を述べるようにしたい。なぜなら、互いの政策提案を高めることを目的とし、この目的の達成によりよく貢献することが望ましいからである。相手チームの立場を十分に尊重し、相手チームにとっても有益な意見交換を展開するべきである。

(参考資料)

政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート

本ワークシートは、主にパブリック・ディベートに初挑戦する皆様をイメージして作成しています。チームでディベート内容を組み立てる参考にして下さい。

実際のスピーチは、審判と聴衆に提案する政策の内容や意図がしっかりと伝わるように、シート内容をアレンジして下さい。例えば、「1. 政策提案」では、第1と第2を一緒に述べたり、議論する順番を変えたりなどが考えられます。また、「2. 相手チームの政策提案についての質疑と意見交換」でも、重要な論点に絞って、意見交換を行うなどが考えられます。

ワークシートは、パブリック・ディベートの一般的な手順に基づき、「1. 政策提案」「2. 相手チームの政策提案についての質疑と意見交換」「3. 論点明示と政策の再提案」の3つについて作成しています。

1 政策提案

ロードマップ

(先攻チーム・後攻チーム)として、政策提案を行います。よろしくお願ひします。
 第1に、政策を求める問ひを受けて取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。
 第2に、その問題を解決するための政策を支える理念や価値観(理想的な社会像)を述べます。
 第3に、政策とその理由を具体的に主張します。
 第4に、その政策を実現するための計画と生まれる効果について述べます。
 第5に、政策提案を振り返り、重要な内容を強調します。

問題の現状
分析

第1に、政策を求める問ひを受けて取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。

(入力欄)

基本的な立場

第2に、その問題を解決する政策を支える理念や価値観(理想的な社会像)を述べます。

(入力欄)

主張

第3に、政策を主張します。その政策を名付けていうならば、()です。
 繰り返しますが、政策は()です。では、その内容と理由を具体的に説明します。

(入力欄)

政策の計画と
効果

第4に、その政策を実現するための計画と生まれる効果について述べます。

(入力欄)

内容の確認

第5に、政策提案を振り返り、重要な内容を強調します。

(入力欄)

終わりの言葉

以上、問題の現状分析、基本的な立場、政策の具体策と効果について述べました。
 これらの内容について、ご質問、ご意見をお願いします。

2. 相手チームの政策提案についての質疑と意見交換

ロードマップ

(先攻チーム・後攻チーム)として、相手チーム(先攻チーム・後攻チーム)による政策提案に対して質疑と意見交換を行います。よろしくお願いします。

第1に、政策を必要とする社会的問題の現状分析について質問し、意見を交換します。

第2に、政策提案を行う基本的な立場について質問し、意見を交換します。

第3に、提案された政策の内容について質問し、意見を交換します。

第4に、提案された政策の計画と効果について、質問し、意見を交換します。

問題の現状分析についての質疑と意見交換

第1に、政策提案を必要とする社会的問題の現状分析について質問し、意見を交換します。先ほどの政策提案においては、

のように述べていますね。このことについて、質問しますので、お答え下さい。

(入力欄)

(応答を得た後)では、意見を述べます。

(入力欄)

私たちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

第2に、政策提案を行う基本的な立場について質問し、意見交換をします。先ほどの政策提案においては

のように述べていますね。このことについて質問しますので、お答えください。

(入力欄)

(応答を得た後)では、意見を述べます。

(入力欄)

私たちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

基本的な立場についての質疑と意見交換

主張についての
質疑と意見
交換

第3に、提案された政策の内容について質問し、意見を交換します。
先ほどの政策提案においては、

のように述べていますね。このことについて質問しますので、お答えください。

(入力欄)

(応答を得た後)では、意見を述べます。

(入力欄)

私たちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

第4に、提案された政策の計画と効果について質問し、意見を交換します。
先ほどの政策提案においては、

のように述べられていますね。このことについて、質問しますので、お答え下さい。

(入力欄)

(応答を得た後)では、意見を述べます。

(入力欄)

わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

政策の計画と
効果について
の質疑応答

終わりの言葉

以上、問題の現状分析、基本的な立場、政策の内容、政策の計画と効果について
質疑と意見交換を行いました。これらの内容について、確認します。

(入力欄)

以上で、政策提案に対する質疑と意見交換を終わります。

3. 論点明示と政策の再提案

ロードマップ

(先攻チーム・後攻チーム)として、相手チーム(先攻チーム・後攻チーム)との質疑と意見交換を生かして、重要な論点の明示と政策の再提案を行います。よろしくお願いします。

第1に、当初の政策提案についての質疑と意見交換について振り返ります。

第2に、それに基づいて、重要な論点を明らかにします。

第3に、述べた重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案します。

第4に、再提案した政策が相手チームの政策より重要であること理由を述べます。

質疑と意見交換の確認

第1に、質疑と意見交換について振り返ります。当初の政策提案についての質疑と意見交換は、次のような内容でした。特に、対立や異論に注目して述べます。

(入力欄)

論点明示

第2に、重要な論点について明らかにします。政策提案についての質疑と意見交換における内容からすれば、次のような対立や異論を克服することが論点になっています。

(入力欄)

政策の再提案

第3に、重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案します。

(入力欄)

政策の重要度の明示

第4に、両チームの現状分析にもどり、再提案した政策が相手チームの政策よりも優れたものになっていること理由を述べます。

(入力欄)

終わりの言葉

最後に、対戦相手のチームのみなさん、審判、聴衆の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

出場校募集要項①

東北6県の高等学校、中学校の皆様へ

第4回 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北） 参加校募集について

東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会、経済産業省東北経済産業局は、東北6県の高等学校、中学校を対象に、第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（以下「第4回大会」という。）を、令和5年1月8日（日）にオンラインで開催します。

このたび、第4回大会の参加校を募集しますので、ご案内を申し上げます。
多くの皆様のご参加をお待ちしています！

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）とは？

「省エネルギー」をテーマ（論題）に、社会の問題を解決するため、国や地方自治体等が採用すべき新しい政策を学生の立場から考え提案し、互いの政策の質を高め合うように議論を深める取組です。

令和元年度に第1回大会を開催し、今回で4回目となります。

過去の試合映像は、
東北経済産業局 WEB から！

東北経済産業局 省エネディベート

検索

第4回大会（予定）について

- 日時** 令和5年1月8日（日）9:15～16:00
会場 オンライン開催（「Cisco Webex Meetings」）
対象 東北6県の高等学校、中学校（最大各8チームが参加）
試合 高校生の部、中学生の部を設け、2チーム同士で試合（ディベート）を行い、トーナメント方式で優勝を目指します。
表彰 ①「政策提案型パブリック・ディベート・ルール（以下「ルール」という。）」に基づき、優勝、準優勝を決定します。
②「省エネ政策提案賞」を選考し、表彰します。（詳細はP.2）

第4回大会の参加校募集について

参加校の募集



- テーマ** 「ウクライナ情勢の影響でエネルギーの価格の上昇や供給不安が起こる中、経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策を提案してください。」（詳細はP.3）
- 応募期間** **令和4年8月22日（月）～10月21日（金）（必着）**
参加申込書及び政策提案の着眼点を事務局に送付（メール又はFAX）
- 応募資格** 東北6県の高等学校、中学校
- 出場校決定** 11月14日（月）に発表予定



- 主催** 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会、経済産業省東北経済産業局
協力 特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部
後援 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市の各教育委員会

出場校募集要項②

第4回大会までの流れ

STEP

1 参加校募集から出場校決定まで

- (1) 「募集説明会」及び「第1回ミニ政策勉強会」の開催
 「募集説明会」及び「第1回ミニ政策勉強会」を、9月18日(日)にオンラインで行います。
 開催の様子は、東北経済産業局のWebサイト(詳細はP.4)で後日視聴可能です。大会への応募をお考えの方は、ぜひご覧ください。
対象 大会への応募を検討している学校の先生、引率者、生徒
申込先 info-debate@p2company.co.jp

過去大会のお申込み状況

- (2) 出場校決定
 申込みが8チームをこえた場合は、「予備審査」で出場チームを決定します。
※申込みが8チーム以内の場合は、全てのチームが出場決定となります。
- | | 第1回 | 第2回 | 第3回 |
|------|------|-------|-------|
| 高等学校 | 8チーム | 17チーム | 10チーム |
| 中学校 | 6チーム | 8チーム | 9チーム |

予備審査

- 申込み時の「政策提案の着眼点」に基づく書類審査です。政策検討の着眼点を10段階で審査します。高校生、中学生ならではの斬新な視点や着眼点であること等を評価します。
- 審査結果は、各チームに通知します。また、出場が決定した場合、当日までに提案内容を改善、改良することは妨げません。

STEP

2 出場校決定から大会前日まで

- (1) 「組合せ抽選会」及び「第2回ミニ政策勉強会」の開催
 トーナメントの「組合せ抽選会」及び「第2回ミニ政策勉強会」を、12月11日(日)にオンラインで行います。
対象 大会に参加する学校の先生、引率者、生徒
- (2) 接続テスト等
 ● オンラインに必要な機器(パソコン等)や通信環境(Wi-Fi等)は、原則、参加校にご準備いただきます。
 ● 上記(1)と併せて、12月11日(日)に、参加校別にアプリケーションの説明やオンライン接続のテストを実施します。当日参加できなかった学校については、後日個別に対応いたします。なお、使用するアプリケーションは、これまでの大会と同様に「Cisco Webex Meetings」を想定しています。
- (3) 政策提案の提出
 大会3日前(1月5日(木))までに、提案予定の省エネ政策の概要をご提出いただく予定です。
- (4) その他
 出場チームには、大会マニュアル、オンラインマニュアル等の必要書類を送付いたします。

STEP

3 大会当日(令和5年1月8日(日))

- 大会は、ルールに基づき実施します。
- 全出場チームは、第1試合、第2試合は必ず参加いただきます。
- 決勝戦は、全出場チームに観戦いただけます。
- 下記のとおり、省エネ政策提案賞を選考し、表彰します。

当日のスケジュール(予定)

時間	内容
9:15	受付開始
9:45	開会式
10:20	第1試合
11:35	昼食
12:30	第2試合
14:15	決勝戦
15:35	閉会式
16:00	終了



省エネ政策提案賞

次世代を担う中高生が、従来と異なる斬新な着眼点で提案した政策を表彰します。
 本賞は、第1試合、第2試合の内容を踏まえ、審査で中学生の部、高校生の部から各1チームを選考します。
 なお、選考の対象に決勝進出の2チームは含まない予定です。

第4回大会のテーマ（論題）

ウクライナ情勢の影響でエネルギーの価格の上昇や供給不安が起こる中、経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策を提案してください。

1. 値上がりするエネルギー価格と増加していくエネルギー消費量

2022年2月にロシアがウクライナへ軍事侵攻を行ったことをきっかけに、石油、LNG、石炭などのエネルギーの原料価格が値上がりしています。一方で、世界のエネルギー消費量は依然として増加傾向にあり、石油換算で1965年の37億トンから年平均2.3%で増加し続け、2020年には133億トンに達しました。各国では、エネルギー確保のため、産油国への増産要請や備蓄の強化といった政策を展開しています。

2. 日本の状況と省エネルギー政策

日本は、エネルギー原料の産出に乏しく、エネルギー自給率は12.1%（2019年）と他の主要国と比べても低く、産油国など海外の影響を受けやすい国となっています。過去の例では、1970年代に起こったオイルショックです。この時、石油の供給が止まるのではないかとこの恐れから、日本中が大混乱に陥りました。そして現在では、ウクライナ侵攻によるエネルギー問題に直面しています。

しかし、日本はオイルショックの経験から、貴重なエネルギーを大切に使うため、省エネに努めてきました。オイルショックをきっかけに制定された「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（通称：省エネ法）では、工場等はエネルギー消費を年1%以上減らす省エネに取り組むことなどが定められています。他にも様々な省エネ政策や取り組みの結果、日本は経済成長しながらも、世界でトップクラスの省エネを達成してきました。さらに政府は、2030年度に温室効果ガスを46%（2013年度比）削減することとし、2050年には温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量を差し引きゼロにする「カーボンニュートラル」実現を目標としています。これは容易なものではなく、更なる省エネが必要となります。

3. 経済活動や生活の質を落とさない省エネルギー政策とは

更なる省エネを進めようとしたときに「とにかくエネルギーを使わないようにしよう」とガマンするだけでは、経済活動や人の生活にもストレスがかかり、長続きできません。一方で、エネルギーの価格は上がっており、多くの企業や家庭で省エネが求められる状況でもあります。

そこで今回、「経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる新しい省エネ政策」を募集します。これまでにない省エネのシステムやターゲット、これまでの政策の大胆なアレンジなど考えてみてください（政府が検討しているポイント制度を除く）。

そして背景となるデータを集めて、どれくらいのエネルギーを減らすことができるのか、ディベートしていきましょう。

出場校募集要項④

事前学習・参考資料（以下 Web サイト等をご参照下さい）

1. 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト関係サイト（東北経済産業局）

※各種資料は、東北経済産業局 Web サイトからダウンロードできます。

https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen_ene/public_debate.html

2. 事前学習の参考サイト

(1) 日本のエネルギーについて

①	日本のエネルギー 2021 (パンフレット)	資源エネルギー庁	https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/energy2021/
②	エネルギーのいろいろな記事 (スペシャルコンテンツ)	資源エネルギー庁	https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johotekyo/ondankashoene/
③	最新のエネルギー白書	資源エネルギー庁	https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/
④	エネルギー基本計画について	資源エネルギー庁	https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/
⑤	エネルギーの学習・情報	東北エネルギー懇談会	https://www.t-enecon.com/

(2) 省エネルギーについて

①	省エネポータルサイト	資源エネルギー庁	https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/index.html
②	省エネ大国・ニッポン～省エネ政策はなぜ始まった？そして、今求められている取り組みとは？～	資源エネルギー庁	https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/tokushu/ondankashoene/shoentaikoku.html
③	時代にあわせて変わっていく「省エネ法」	資源エネルギー庁	https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/tokushu/ondankashoene/shoenehoukaisel.html
④	スマートライフおすすめ BOOK (エネルギーの基礎知識含む)	一財 家電製品協会	https://shouene-kaden2.net/recommend_book/
⑤	省エネ・節電お役立ち情報	電気事業連合会	https://www.fepec.or.jp/sp/powersaving/index.html

(3) その他の参考情報

①	日本のエネルギー消費量等の統計データ	資源エネルギー庁 総合エネルギー統計	https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/
②	経済産業省 省エネルギー小委員会資料	資源エネルギー庁 省エネルギー・ 新エネルギー分科会	https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene_shinene/sho_energy/index.html

第4回大会における個人情報と肖像権の取扱い

本大会の参加申込書等を通じて取得した個人情報（氏名、学校名、学年、担当教科、引率者の連絡先）及び肖像権の取扱いに関しては、以下のとおりに対処させていただきますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会運営に必要な各学校との連絡や、表彰状を作成する際に利用します
- (2) 大会プログラム冊子に掲載されます
- (3) 大会内での告知・アナウンス等により紹介されることがあります
- (4) 大会関連の Web サイト（ホームページ・印刷物等）に掲載されることがあります

2. 競技結果（記録）等の取り扱い

- (1) 主催者が設置する大会本部を通じて公開されます
- (2) 報道機関等で、新聞・雑誌又は関連 Web サイト等で公開されることがあります

3. 競技風景の撮影・録画等の取り扱い

- (1) 報道機関等の各団体を通じて、競技風景の映像や写真が、中継・録画放映・インターネット配信、その他の媒体等で紹介されることがあります
- (2) 主催者が大会終了後に映像資料として編集し、DVDなどで関係者に配布することや Web サイト（ホームページ等）に掲載されることがあります
- (3) 主催者が認めた大会参加選手の関係者やオンライン会場の来場者が、競技の様態を撮影することがあります

4. 大会本部としての対応

- (1) 本人の承諾なく上記利用目的以外に、取得した個人情報を使用することはありません
- (2) 参加申込書の提出により、上記取扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます
もし、個人の映像および画像の利用をご承諾いただけない場合は、事務局までご連絡ください
- (3) 個人情報、肖像の掲載または公開に関するご質問は、下記のお問合せ先（事務局）までご連絡ください

問合せ先・申込先

事務局 (大会に関する 問合せ先及び申込先)	第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 (株式会社ピーツーカンパニー) 担当：和田 TEL：03-3473-7871（土日祝を除く） FAX：03-3473-7870 MAIL：wada@p2company.co.jp
主催者 (本事業に関する 問合せ先)	東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会 経済産業省 東北経済産業局 資源エネルギー環境部 総合エネルギー広域室 担当：戸波、可部、新々木 TEL：022-221-4927（土日祝を除く） MAIL：bz1-tohoku-energy-koho@meti.go.jp

参加申込書①

第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）参加申込書

（申し込み先（事務局） FAX：03-3473-7870 MAIL：wada@p2company.co.jp）

_____年 月 日

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（中学生の部・高校生の部）に参加を申込みます。

1. 学校情報（1校から複数チームを申し込む際は、用紙毎に1チームとして、各チームに名称や番号等を付記下さい）

名称（正式名）		立	中学校／高等学校
所在地（〒 - ）			
電話番号	- -	Fax	- -
過去の参加 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし			

2. 参加予定の選手（政策提案型パブリック・ディベート・ルール^①の2（1）、を参照ください。）

	氏名（フリガナ）	学年		氏名（フリガナ）	学年
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

3. 引率者（緊急連絡先（携帯電話等）、電子メールは必ずご記載ください）

氏名（フリガナ）	担当教科
緊急連絡先電話番号	電子メール
- -	
引率者が教員ではない <input type="checkbox"/> →	【チームとの関係】 保護者・OB/OG・その他（ ）

※引率者が教員でない場合は、以下に学校名、代表者氏名を記入ください。

上記の引率者を承認し、学校代表であることを証明します。

学校名 _____

代表者 職・氏名 _____ 職印 _____

4. 確認事項

以下にご同意を御願います。同意いただける場合は、□にチェックください。

募集要項内「本大会における個人情報と肖像権の取扱い」に同意します。

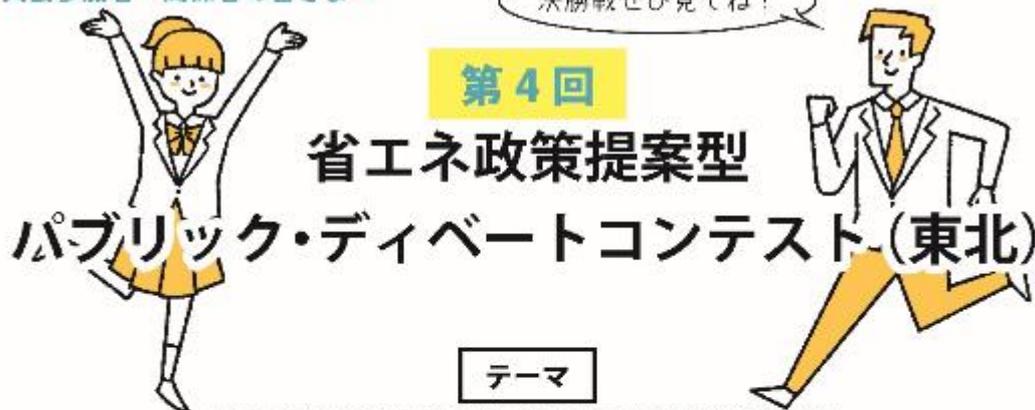
政策提案の着眼点

- ① 予備審査が必要な場合に使用します。お申込みに併せてご提出下さい。
- ② 本紙は、第4回大会終了まで、事前に参加する各チームに提示・共有は致しません。
- ③ 出場が決定した場合、当日までに提案内容を改善、改良することは妨げません。
- ④ 本紙は、大会終了後に大会成果のとりまとめや行政機関の資料等で使用させていただくことがあります。(本紙は、A4で2枚以内におさめてください。)

学校名	
提案予定の政策名 と政策の骨子	※暫定の政策名と政策の骨子（簡条書き）を記載下さい。名称は予備審査に影響しません。
政策の着眼点 (現状分析と提案理由)	<p>※提案予定の政策をどのような着眼点で検討しているのか、現状分析と政策提案の理由について、以下を目安にまとめてください。 中学生チームは、400～600文字程度。 高校生チームは、600～800文字程度。</p> <p>※予備審査は、政策を提案する出発点として、高校生、中学生ならではの斬新な視点や着眼点について、審査をします。具体的な政策効果等の内容は、予備審査に含みませんので、現時点では記載いただかなくても審査に影響しません。</p>

大会参加者・関係者の皆さまへ

決勝戦ぜひ見てね！



第4回

省エネ政策提案型

パブリック・ディベートコンテスト(東北)

テーマ

「ウクライナ情勢の影響でエネルギーの価格の上昇や供給不安が起こる中、
経済活動や生活の質を落とさずにエネルギー消費量を減らせる
新しい省エネ政策を提案してください。」

決勝戦LIVE配信

事前登録・視聴無料

東北エリアの中学生・高校生が省エネをテーマにディベート対決。予選2試合を勝ち抜いたチームで行われる決勝戦は一般の方でも観戦できます。オンラインでLIVE配信されますので、ぜひ観戦を申し込んでください！

出場校

中学生の部

青森	八戸工業大学第二高等学校附属中学校
岩手	盛岡中央高等学校附属中学校
宮城	東北学院中学校
宮城	宮城教育大学附属中学校
福島	福島県立ふたば未来学園中学校

高校生の部

青森	八戸聖フルスラ学院高等学校
岩手	岩手県立岩泉高等学校
宮城	古川学園高等学校
宮城	東北学院高等学校
秋田	秋田県立秋田西高等学校
福島	福島県立磐城高等学校

決勝戦視聴 LIVE 配信申込み



視聴希望の場合は下記メールアドレスへご連絡ください
メール申込み：info-debate@p2company.co.jp
申込締切：2023年1月6日（金） 昼12時

配信日時 決勝戦オンラインLIVE配信
令和5年1月8日（日）14：15～14：55

第4回

省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト（東北）

大会プログラム

午前	午後
8:45 開会式	14:15 決勝戦
9:20 第1試合	15:15 結果発表
10:50 第2試合	16:00 閉会
12:20 第3試合	

決勝戦 LIVE 配信

中学・高校同時開催
決勝戦をオンライン視聴できます！

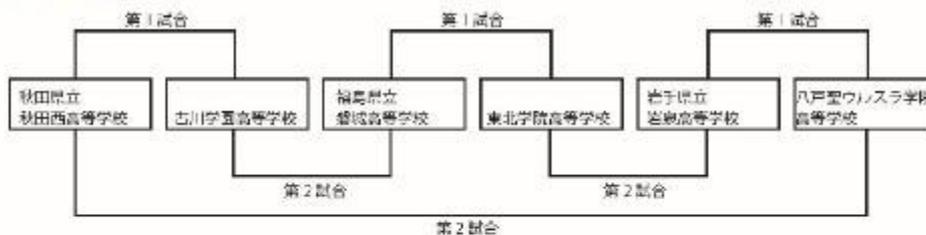


詳細はこちらから（東北経済産業局 HP） https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen_ene/public_debate.html

中学生の部 決勝戦進出は総合得点によります



高校生の部 決勝戦進出は総合得点によります



主 催：東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会
経済産業省東北経済産業局
協 力：特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部
後 援：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会
河北新報社、朝日新聞仙台支局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、
日本経済新聞社仙台支局、産経新聞東北総局、東奥日報社、
デーリー東北新聞社、岩手日報社、秋田魁新報社、山形新報・山形放送、
福島民報社、福島民友新聞社、日刊工業新聞社東北・北海道総局、
NHK 仙台放送局、the 東北放送、ミヤギテレビ、Khb 東日本放送

お問合せ

第4回 省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト東北事務局
株式会社ピーツーカンパニー（担当：和田）
10：30～17：00 月～金（祝日を除く）
TEL:03-3473-7871
E-mail:info-debate@p2company.co.jp
※いただいた個人情報は本人の許諾なく本コンテストの
実施目的以外には使用いたしません。

第4回 省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト 大会のしおり

<目次>

1. 提出書類について
2. 大会の進め方
3. 試合の進め方とお願い
4. 決勝以後の進め方とお願い

(別添1) 政策提案シート (様式)

(別添2) 出場及び登録メンバー届 (様式)

(別添3) よくあるご質問への回答

○本大会に関するお問い合わせ

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局 担当：和田

Email:wada@p2company.co.jp

電話：03-3437-7871 FAX：03-3437-7870

○大会前日・当日の緊急連絡先

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

担当：和田 携帯：070-4808-1974 (7日 13:00~17:00/8日 8:00~16:00)

技術・佐藤 携帯：090-8004-6792 (8日 8:00~16:00)

1. 提出書類について

□政策提案シート（別添1）：

1月5日（木）12時（正午）までに事務局（wada@p2company.co.jp）あてにメールでご提出ください。

- ・第1試合と第2試合で異なる提案をする場合は、提案ごとにご提出ください。

□出場及び登録メンバー届（別添2）

1月7日（土）12時（正午）までに事務局（wada@p2company.co.jp）あてにメールでご提出ください。

- ・第1試合と第2試合に出場する選手の届出を提出してください。
- ・第1試合と第2試合で異なる提案する場合は、提案ごとに届出を提出してください。
- ・不測の事態等で選手の変更が必要な場合は、事務局 070-4808-1974 あてご連絡ください。

□政策提案のレジメ（読み上げ原稿）

大会後1月14日までに事務局（wada@p2company.co.jp）あてにメールまたはFAX 03-3473-7870でご提出ください。

- ・大会で提案した政策のレジメについて、発表時の原稿（掲示物は必要ありません）について、提出をお願いいたします。事務局で事例集として編集し、広報資料等で使わせていただく予定です。

2. 大会の進め方

○日時：令和5（2023年）年1月8日（日）8:45開会～16:00閉会（※8:20受付開始）

○大会本部：宮城県仙台市青葉区本町2丁目12-7 ハーネル仙台

○使用ソフト：Cisco Webex Meetings（ソフトのインストールをお願いします）

○自校からオンライン接続（PC1台1回線で接続）

- ・自校で準備したPCや通信環境、または事務局が貸与したPCやWi-Fiルーターから接続してください。Wi-Fiルーターは窓のそばなど電波の入りやすい場所に置いてください。
- ・通信が安定しない場合は、有線で接続することをご検討ください。
- ・相手チーム等に音声聞きやすくするために、外部マイクをPCに接続することを推奨します。

○会場の入り方（※8時20分より受付）

- ・オンラインイベント会場のトップページを開く。<https://tohoku-debate.saloon.jp/>
※貸与PCの場合はデスクトップのショートカットアイコンからオンラインイベント会場の「トップページ」を開きます。
- ・トップページから「開会式会場」に接続し、Cisco Webex Meetings を起動して会場に入室してください。参加者の確認は事務局が行いますので、そのままお待ちください。

大会のしおり③

オンラインイベント会場 イメージ図

主催：経済産業省東北経済産業局、東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

第4回
省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト
オンラインイベント会場

開会式会場 8:45～ 9:00 (8:20より受付)  クリックして 入場	審判員 8:20～ オリエンテーション  クリックして 入場	組合せ表 (中学・高校共通) 
第1・第2・第3 試合会場 	ルーム 1 クリックして 入場	ルーム 2 クリックして 入場
	ルーム 3 クリックして 入場	ルーム 4 クリックして 入場
	ルーム 5 クリックして 入場	
決勝戦会場 14:05～ (中学生の部) 15:05  クリックして 入場	決勝戦会場 14:05～ (高校生の部) 15:05  クリックして 入場	決勝戦投票 (決勝戦終了後投票して ください) 
決勝戦視聴 14:15～ (中学生の部) 14:55  クリックして 視聴	決勝戦視聴 14:15～ (高校生の部) 14:55  クリックして 視聴	遅延・障害等 大会運営状況 
結果発表 15:15～ 閉会式会場 16:00  クリックして 入場	参加校用 WEBアンケート 	審判員用 WEBアンケート 

大会のしおり④

○大会当日のスケジュール

通信トラブル等が生じた場合は、対処のため大会進行が遅れることがあります。進行状況は、オンラインイベント会場の「遅延・障害等大会運営状況」でお知らせします。

8:20 ~ 8:45 受付開始 (待機時に画面に“エネルギークイズ”が流れます)
8:45 ~ 9:00【15分】 開会式 (挨拶・諸注意)

【第1試合 (中学生の部・高校生の部)】

9:00 ~ 9:10【10分】 試合接続時間
9:10 ~ 9:20【10分】 準備時間
9:20 ~ 10:35【75分】 試合・交流時間

【第2試合 (中学生の部)】

10:40 ~ 10:45【5分】 試合接続時間
10:45 ~ 10:50【5分】 準備時間
10:50 ~ 12:05【75分】 試合・交流時間

【第3試合 (中学生の部)・第2試合 (高校生の部)】

12:10 ~ 12:15【5分】 試合接続時間
12:15 ~ 12:20【5分】 準備時間
12:20 ~ 13:35【75分】 試合・交流時間

※試合結果：随時オンラインイベント会場の「組合せ表 (中学・高校共通)」を更新します

試合終了後 **13:35** ~ 14:05【30分】 休憩・決勝進出校発表

【決勝戦】

▶進出チーム

14:05 ~ 14:10【5分】 「決勝戦会場」へ接続
14:10 ~ 14:15【5分】 準備時間
14:15 ~ 14:55【40分】 決勝戦 (中学生の部・高校生の部)
14:55 ~ 15:05【10分】 対戦チーム同士の交流

▶その他のチーム

14:10 ~ 14:15【5分】 「決勝戦視聴」へ接続
14:15 ~ 14:55【40分】 決勝戦を視聴 (中学生の部・高校生の部)
14:55 ~ 15:05【10分】 「決勝戦投票」へ接続し、各自のスマホ等で投票

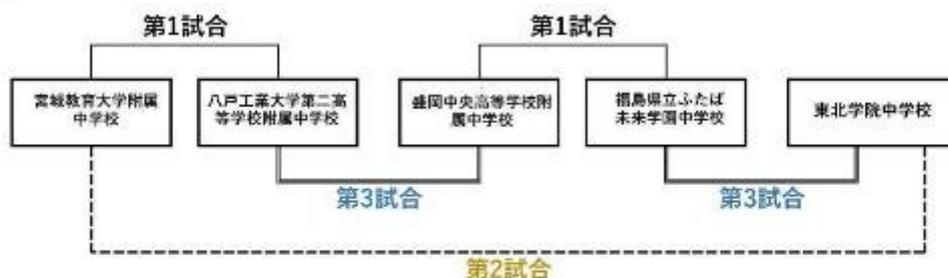
【結果発表・閉会式】

15:05 ~ 15:15【10分】 全チーム「結果発表・閉会式会場」へ接続
(待機時に画面に“エネルギークイズ”が流れます)
15:15 ~ 15:50【35分】 審査結果発表・講評・閉会式 (表彰・挨拶)
15:50 ~ 16:00【10分】 アンケート (WEBアンケート記入)
16:00 閉会

大会のしおり⑤

○組合せ表

中学生の部



予選組合せ及び試合会場

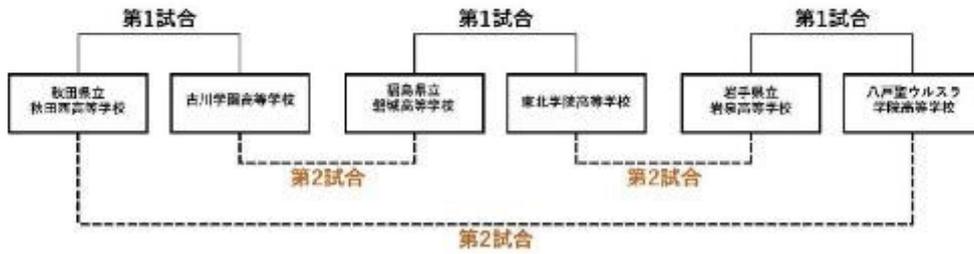
		第 1 試合 接続開始 9:00～	第 2 試合 接続開始 10:40～	第 3 試合 接続開始 12:10～
ルーム 1	先 攻	宮城教育大学附属中学校	宮城教育大学附属中学校	八戸工業大学第二高等学校附属中学校
	後 攻	八戸工業大学第二高等学校附属中学校	東北学院中学校	盛岡中央高等学校附属中学校
ルーム 2	先 攻	盛岡中央高等学校附属中学校	/	福島県立ふたば未来学園中学校
	後 攻	福島県立ふたば未来学園中学校		東北学院中学校
休 憩		東北学院中学校	八戸工業大学第二高等学校附属中 福島県立ふたば未来学園中 盛岡中央高等学校附属中	宮城教育大学附属中学校

学校別タイムテーブル

学校名	第 1 試合 9:00～10:35	第 2 試合 10:40～12:05	第 3 試合 12:10～12:30
八戸工業大学第二高等学校附属中学校	ルーム 1：後攻 (先攻：宮城教育大学附属中学校)	休憩時間	ルーム 1：先攻 (後攻：盛岡中央高等学校附属中学校)
盛岡中央高等学校附属中学校	ルーム 2：先攻 (後攻：福島県立ふたば未来学園中学校)	休憩時間	ルーム 1：後攻 (先攻：八戸工業大学第二高等学校附属中学校)
東北学院中学校	休憩時間	ルーム 1：後攻 (先攻：宮城教育大学附属中学校)	ルーム 2：後攻 (先攻：福島県立ふたば未来学園中学校)
宮城教育大学附属中学校	ルーム 1：先攻 (後攻：八戸工業大学第二高等学校附属中学校)	ルーム 1：先攻 (後攻：東北学院中学校)	休憩時間
福島県立ふたば未来学園中学校	ルーム 2：後攻 (先攻：盛岡中央高等学校附属中学校)	休憩時間	ルーム 2：先攻 (後攻：東北学院中学校)

大会のしおり⑥

高校生の部



予選組合せ及び試合会場

		第 1 試合 接続開始 9:00～	休憩時間 10:40～12:05	第 2 試合 接続開始 12:10～
ルーム 3	先攻	秋田県立秋田西高等学校	※	古川学園高等学校
	後攻	古川学園高等学校		福島県立磐城高等学校
ルーム 4	先攻	福島県立磐城高等学校		東北学院高等学校
	後攻	東北学院高等学校		岩手県立岩泉高等学校
ルーム 5	先攻	岩手県立岩泉高等学校		秋田県立秋田西高等学校
	後攻	八戸聖ウルスラ学院高等学校		八戸聖ウルスラ学院高等学校

※この休憩時間に中学生の部・第 2 試合が行われます。

3. 試合の進め方とお願い

○試合の進め方

- ・接続時間になりましたら、オンラインイベント会場のトップページから各校の試合会場となる「ルーム 1 ～ 5」に接続してください。自校以外の試合会場には入室しないでください。
- ・準備時間になりましたら、主審から登録選手の確認、試合について説明があります。適宜、指示に従ってください。
- ・スピーチをする選手は、氏名と担当するステージを発表いただきます。
- ・試合中は登録したメンバーのみで試合に臨んでください。

○試合中の流れ

- ・政策提案型パブリック・ディベート・ルール（以下「ルール」という。）及びガイドラインに基づき行います。
- ・各ステージの発言者は、審判の合図に従ってスピーチを開始してください。
- ・質疑と意見交換を行うステージ 2 と 4 では、1 チームのディベーターは 1 ～ 2 名ですが、話をする時は一人ずつ話をしてください。

試合接続時間／準備時間 ルーム接続／注意事項連絡・スピーチをする選手から氏名と担当ステージ発表

ステージ 1	先攻チームによる政策提案	4 分間
	後攻チームのための準備時間	2 分間
ステージ 2	先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5 分間
ステージ 3	後攻チームによる政策提案	4 分間
	先攻チームのための準備時間	2 分間
ステージ 4	後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5 分間
	準備時間	5 分間
ステージ 5	後攻チームによる論点明示と政策の再提案	4 分間
ステージ 6	先攻チームによる論点明示と政策の再提案	4 分間
試合終了後	相手チームとの交流	10 分間（詳細は p7「○試合終了後」の項目を参照）
	判定・講評	10 分間、意見交換 15 分間

○各ステージについて

- ・ルール及びガイドラインをご確認下さい。
- ・質疑や意見交換の際、重要な論点を指摘し、相手の主張の要点を引用しながら、かみ合ったやり取りができるよう、意見を述べてください。（参照 ルール 4.（2）②工）

大会のしおり⑧

- ・政策の再提案においては、重要な論点に応じて自らの政策に改善を加え、再提案した政策が相手チームの政策よりも優れていることを述べてください。(参照 ルール 4.(2)②ウ)

<注意事項>

- ・ディベーターの手元の紙がこすれる音などで、相手チームや審判などがスピーチを聞き取りにくくなります。マイク付近で紙を動かすときは注意してください。
- ・マイクは、基本的にミュートにして下さい。スピーチするステージでミュートを解除して、話すようにして下さい。
- ・質疑と意見交換のステージでは、一人ずつ話をするようにして下さい。
- ・試合の録画は、参加選手の肖像権等の保護の点から控えてください。IC レコーダー等での録音は、必要があれば行っていただいてもかまいません。

○トラブル関係

- ①通信トラブルで相手チームのスピーチが聞こえなくなった場合
 - ・担当教員がミュートを解除して『聞こえません』と声をかけて試合を止めて下さい。生徒はカメラに向かって手をクロスさせ×点（バツテン）を示してください。計時担当は計時を停止。聞こえなくなったところから再開します。
- ②ノイズが入る場合
 - ・主審の判断で「映像を切断」し、音声のみで試合を継続する場合があります。
- ③通信トラブルが改善しない場合
 - ・Webex アプリや PC、Wi-Fi ルーターの再起動を行ってください。
 - ・トラブルが改善しない場合、本しおり表紙の「大会前日・当日の緊急連絡先」へご連絡ください。
 - ・大会運営に支障が生じる場合は、状況を踏まえて大会本部で協議の上、抽選等により勝敗を決定する場合があります。

<※通信トラブル防止のために>

- ・上記の通信トラブルを回避するため、各試合終了後にできるだけ PC の再起動をお願いします。

○試合終了後

- ・ステージ 1～6 までの全ステージ終了後に、審判が別ルームで判定協議（10 分間）を行います。この時間を利用して、相手チームと交流を行ってください。
- ・相手チームとの交流の際は、試合の感想や苦勞した点など、自由に会話してください。
- ・引率の先生におかれましては、交流ができるように、お取り計らいをお願いします。
- ・判定協議終了後、審判より講評と判定をお伝えします（10 分）。その後、意見交換の時間となります（15 分間）。意見交換の時間は、主審が進行します。各チームは、審判員や相手チームへの質問や疑問などを率直にお話いただければと思います。

※各試合の結果は、トップページから「組合せ表（中学・高校共通）」に接続してご確認ください。

4. 決勝以後の進め方とお願い

○決勝戦の視聴と投票について

①決勝戦の視聴

- ・決勝戦は、中学生の部・高校生の部それぞれで行います。
- ・決勝戦に出場しない生徒の皆さんは、試合に使用したパソコンや各自のスマートフォン等から「決勝戦視聴（中学生の部）」または「決勝戦視聴（高校生の部）」に接続して YouTube ライブで視聴をお願いします。

②投票

- ・決勝戦では、YouTube ライブ視聴者に審判になっていただき、判定（勝利チーム及び試合評価）に関与していただきます。勝敗に関わりますので、是非とも投票をお願いします。
- ・中学生は中学生の部、高校生は高校生の部の決勝戦を視聴した上で、投票をお願いします。引率の方も投票できます。
- ・投票は google フォームにより実施します。

（※決勝戦進出校の関係者は、投票をご遠慮ください。）



- ・スマートフォンご利用の際は右記の QR コードを読み取って、オンラインイベント会場にアクセスしてください。



○YouTube ライブについて

- ・保護者含む出場校関係者、並びに大会関係者は、事前登録により決勝戦（中学生の部・高校生の部）を YouTube ライブでご覧いただけます。

○結果発表・表彰式

- ・高校生の部、中学生の部それぞれに優勝、準優勝、政策提案賞受賞チームを表彰します。
- ・参加申込時に登録いただいた引率者のメールアドレスあてに、大会翌日を目途に賞状（押印無し pdf 版）を送付いたします。全校集会などで御活用ください。
- ・受賞チームは、賞状（紙版）が到着後、チーム全員と担当の先生で集合写真を撮影し、写真データを事務局にメールで送信してください。各チームの写真を加工してメールで返送します。



○大会アンケートについて



- ・次回の大会運営の参考とさせていただくため、大会アンケートを実施します。オンラインイベント会場「参加校用 WEB アンケート」に接続して各自アンケートにご回答ください。ご協力をお願いします。

○よくあるご質問への回答

- ・よくあるご質問への回答（別添 3 参照）をまとめましたので、ご覧下さい。

大会のしおり⑩（別添1 政策提案シート）

別添1 政策提案シート

第4回パブリック・ディベートコンテスト 政策提案の概要

- ① 試合で提案予定の政策内容について記載してください。
- ② 本紙は政策提案賞選考のための資料として使用します。
- ③ 情報は審判員限りとし、参加する各チームに提示・共有は致しません。
- ④ 本紙提出後、試合までに提案内容を改善、改良することは妨げません。

学校名	
提案予定の政策名 と政策の骨子	※政策名と政策の骨子を記載下さい
政策提案の概要 （現状分析と提案理由、政策の実施方法や効果など）	※提案予定の政策について、現状分析と政策提案の理由、政策の実施方法、政策を行った際の効果について（根拠となるデータがあればそれも含めて）概要を記載してください。

本紙の提出〆切：令和5年1月5日（木） 正午12:00まで

wada@p2company.co.jp 宛にメールでご提出ください。

大会のしおり⑪（別添2 出場及び登録メンバー届）

別添2

出場 及び 登録 メンバー届

学校名()登録人数(名)

政策名と概要(概要は50～100文字程度でお願いいたします。)

←政策提案で掲示物を使用する場合はチェックしてください。

※1月7日(土)12時までに、事務局(wada@p2company.co.jp)あてメールで提出してください。

○第一試合

ステージ	ふりがな 氏 名/学 年	ふりがな 氏 名/学 年
政策提案		
質疑と意見交換 (相手への質問と意見交換)		
質疑と意見交換 (質問の応答と意見交換)		
政策再提案		

○第二試合

ステージ	ふりがな 氏 名/学 年	ふりがな 氏 名/学 年
政策提案		
質疑と意見交換 (相手への質問と意見交換)		
質疑と意見交換 (質問への応答と意見交換)		
政策再提案		

・1ゲームは2～10名で構成。各ディベーターは、1つの大会の予選試合において、1試合は出場しなくてもよい。

・1つの試合に出場するメンバーは、スピーチ(質疑応答も含め)を最長1回を行うものとし、各ステージの担当は、1名ないし2名とする。

大会のしおり⑫（別添3 よくあるご質問への回答）

別添3 よくあるご質問への回答

番号	質問	回答
1	大会申込み後に参加できなくなったり、新たに参加を希望する生徒がいた場合、出場選手のエントリー変更は可能ですか。	出場選手のエントリー変更は可能です。 大会前日正午までに「出場及び登録メンバー届」を事務局あてメールで提出していただきますが、不測の事故で変更が必要になる場合は、事務局あて電話をしてください。
2	8人チームで出場し、第1試合で4人、第2試合で残りの4人がスピーチをしようと考えていますが、第1試合（又は第2試合）でスピーチをしない選手も、準備時間中の話し合いに参加させたいため、第1試合（又は第2試合）の選手席に座ることは可能ですか。	可能です。 大会前日正午までに「出場及び登録メンバー届」（選手席に座るメンバーとそのうち各ステージのスピーチ担当者等を記載した名簿）提出してもらいますが、そのリストに記載がある選手であれば選手席に座ることが可能です。 なお、ルール2(1)に記載のとおり、参加選手として記載されている者は、予選試合において、最低1回はスピーチ（質疑応答含む）を行わなければなりません。
3	選手がスピーチをしている時に、そのステージを担当する選手以外の方が、スピーチをしている選手に対し、口頭でアドバイスを送っても良いのでしょうか。	できません。 各ステージは、担当する生徒に任せられます。 ただし、アドバイスの内容を紙に書いて選手に渡すことは、禁止されてはなりません。しかし、スピーチしている最中にアドバイスの紙を見ると、選手が、かえってスピーチに混乱する場合もあることに留意してください。
4	対戦チームが似た内容の政策提案をした場合でも試合は成立しますか。	成立します。 政策提案型パブリック・ディベートは、ルール4(2)②チーム評価の記載のとおり、「ア政策提案の効果等」の他に「イ質疑・意見交換」や「ウ再提案する政策の相手よりも勝る点」も評価の対象としています。政策提案以外のステージにおける討論で評価に差が出ることから、似た内容の政策提案だとしても、試合は成立します。 また相手との細かな違いを見つけ出し、質疑・意見を交わすことで、より質の高い討論になると考えています。
5	ガイドライン5(2)で政策提案時の掲示物は、「模造紙1枚まで」の大きさがありますが、どのくらいのサイズになるのでしょうか。	オンライン開催のため「A4版～A3版くらいの紙1枚」をカメラの前にかざしてください。試合中に掲示できるのは1枚だけです。なお、資料の文字を反転して作成する必要はありません。 また、システムの都合で、パワーポイントの使用は認められませんのでご注意ください。
6	スピーチの際に、持ち込んではいけないものはありますか。	試合に必要なパソコンは使用してください。それ以外の携帯電話（スマートフォン含む）・スマートウォッチ等は試合に持ち込んではいけません。
7	政策の提案や再提案をするときに、ワークシートの通りに話さなくてははいませんか？ルールの時間内におさまりきりません。	ワークシートの通りに話すルールはありません。ワークシートは、ルールやガイドラインにそった政策提案や再提案のスピーチを考える際に、参考としていただく資料です。あくまで参考資料ですので、ワークシートの通りに話さなくてはならないということではありません。ワークシートを参考に、審判や聴衆に伝わる構成を工夫して下さい。



第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（決勝戦投票フォーム）

本大会のディベートは政策提案型パブリック・ディベートと呼びます。この投票フォームで、試合生放送で行われた2つのチームの議論を比較して優位な方に投票ください。自分の好みや意見に近い方に投票するということではありません。

投票にアカウントは必要ありません。



*必須

あなたは、どちらの決勝戦を観戦しましたか？ *

- 中学生の部
- 高校生の部

次へ

フォームをクリア



第3回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（決勝戦投票フォーム）



アカウントを切り替える



*必須

決勝戦投票フォーム 大会出場者

ニックネームを記入してください*

*個人情報保護のためニックネームでご記入ください*氏名が重複した場合は後の回答を採用します

回答を入力

1.勝利チーム*

審判は、①現状を分析して解決すべき問題を取り出し、理窟等を明確にして問題解決の助けになる実行可能な政策が②積極性、重要な論点の指摘③当初の提案からの改善度合い、相手チームの提案より重要か、に注目しています。そうした点も、投票をする際の参考にしてください。

先行チームの勝利

後攻チームの勝利

2.試合評価（いずれかを選択してください。）*

決勝戦の試合自体の評価をお願いします。①聞き取りやすくわかりやすかったか、②双方の論点をかみ合わせて内容に広がりや深まりがあったか、③結論が具体的な根拠に支えられていたか、に注目して、5段階で評価ください。

選択

戻る

次へ

フォームをクリア

決勝戦投票用フォーム③



第3回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（決勝戦投票フォーム）

アカウントを切り替える

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト アンケート調査

選択肢を選んでください。また、ご意見があればテキストボックスに記述をお願いします。

1.パブリック・ディベートの試合はいかがでしたか？

選択

2.各チームのスピーチは、聞き手を意識したわかりやすいものでしたか。

選択

3.本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

選択

4.次回も本大会を観戦したいですか。

選択

その他、全体を通してお気づきの点やご意見、決勝戦はこんなところに注目して評価したなどあればご記入ください。

回答を入力

戻る 送信

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム

選択肢を選択してください。また、次回のより良い大会の実施に向け、お気づきの点や改善して欲しい点がございましたら、テキストボックスに記述をお願いします。

回答にアカウントは必要ありません。

Progress indicator with colored bars and a cloud icon.

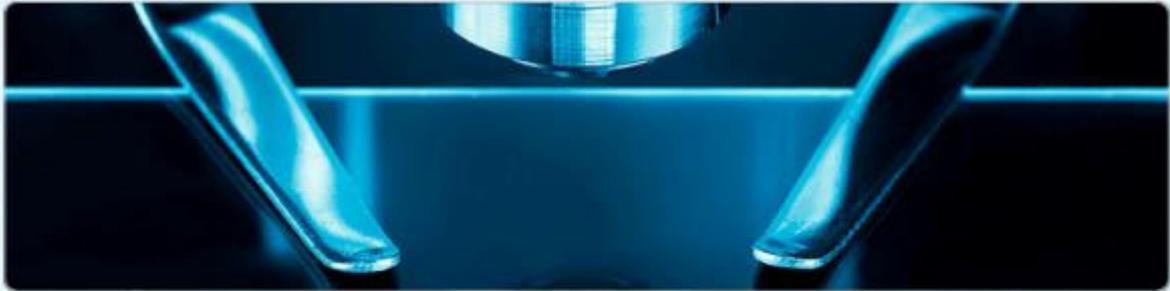
*必須

あなたは、以下のどれにあてはまりますか。*

- 中学生
- 高校生
- 引率者

次へ

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム



出場チーム生徒①

本大会に応募した理由を教えてください

回答を入力

第1回勉強会（9月18日）に参加または動画を視聴しましたか

- はい
- いいえ

戻る

次へ

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム



出場チーム生徒②

第1回勉強会（日本のエネルギー、省エネ政策）は政策提案等の参考になりましたか

- 大変参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない
- あまり参考にならなかった
- 全く参考にならなかった

上記のように回答した理由を教えてください

回答を入力

戻る

次へ

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム



出場チーム生徒③

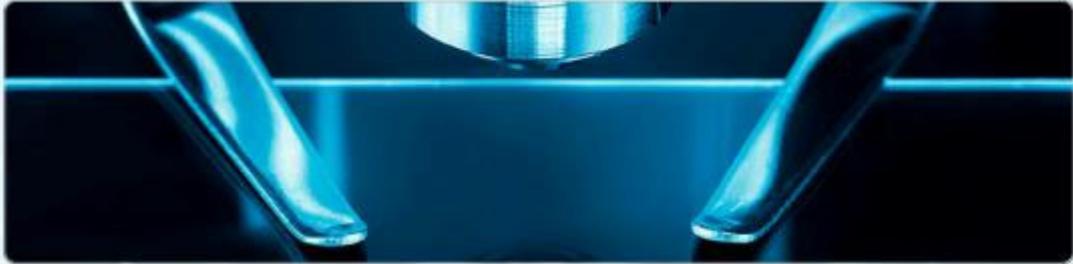
第2回勉強会（12月11日）に参加または動画を視聴しましたか

- はい
- いいえ

戻る

次へ

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム

📄 下書きを保存しました

出場チーム生徒④

第2回勉強会（政策提案のチェックポイント、ディベートの表現方法）は政策提案等参考になりましたか

- 大変参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない
- あまり参考にならなかった
- 全く参考にならなかった

選択を解除

上記のように回答した理由を教えてください

回答を入力

戻る

次へ

フォームをクリア

出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム⑥

出場チーム生徒⑤

省エネルギーへの関心は高まりましたか

大変高まった

高まった

どちらともいえない

あまり高まらなかった

全く高まらなかった

政策を考える関心は高まりましたか

大変高まった

高まった

どちらともいえない

あまり高まらなかった

全く高まらなかった

本大会での通信状況について教えてください

安定していた

不安定な場面もあったがディベートに支障はなかった

不安定な場面があり、ディベートにも支障をきたした

ディベートできないほど不安定だった

待ち時間でのエネルギークイズについて感想をお聞かせください

大変興味深かった

興味深かった

どちらともいえない

あまり面白くなかった

全く面白くなかった

次回も参加したいと感じましたか、または後輩に勧めたいと思いましたが引率者の方は次回も学生に参加を勧めたいと思いましたが

参加したい、勧めたい

どちらともいえない

参加したくない、勧めたくない

大会に出場して感じたことがあれば、教えてください

回答を入力

戻る 送信

フォームモックアップ



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム



引率者①

本コンテストに応募した理由を教えてください

回答を入力

第1回勉強会（9月18日）に参加または動画を視聴しましたか

- はい
- いいえ

戻る

次へ

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム



引率者②

第1回勉強会（日本のエネルギー、省エネ政策）は政策提案等の参考になりましたか

- 大変参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない
- あまり参考にならなかった
- 全く参考にならなかった

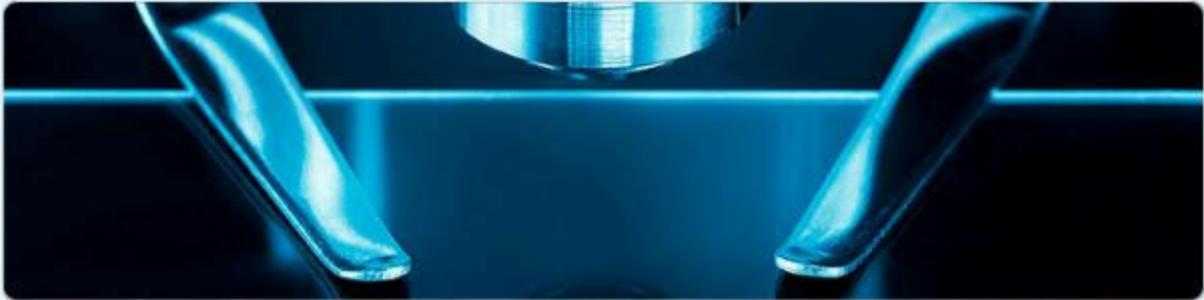
上記のように回答した理由を教えてください

回答を入力

戻る

次へ

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム



引率者③

第2回勉強会（12月11日）に参加または動画を視聴しましたか

- はい
- いいえ

戻る

次へ

フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム



引率者④

第2回勉強会（政策提案のチェックポイント、ディベートの表現方法）は政策提案等参考になりましたか

- 大変参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない
- あまり参考にならなかった
- 全く参考にならなかった

上記のように回答した理由を教えてください

回答を入力

戻る

次へ

フォームをクリア

出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム⑪



第4回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム

アカウントを切り替える

引率者

本大会で使用した回線を教えてください

- 自前のWi-Fiもしくは有線LAN
- 参加費から貸出されたモバイルWi-Fiルーター
- その他 _____

本大会での通信状況について教えてください

- 安定していた
- 不安定な場面もあったがディベートに支障はなかった
- 不安定な場面があり、ディベートにも支障をきたした
- ディベートできないほど不安定だった

本大会を通じて期待することを教えてください

回答を入力

待ち時間でのエネルギークイズについて感想をお聞かせください

- 大変興味深かった
- 興味深かった
- どちらともいえない
- あまり面白くなかった
- 全く面白くはなかった

次回も参加したいと感じましたが、または後輩に勧めたいと思いましたが引率者の方は次回前半午に参加を勧めたいと思いましたが

- 参加したい、勧めたい
- どちらともいえない
- 参加したくない、勧めたくない

大会に出場して感じたことがあれば、教えてください

回答を入力

戻る 送信 フォームをクリア



第4回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 審判員向けアン ケートフォーム

次回のより良い大会の実施に向け、お気づきの点や改善して欲しい点がございましたら、テキストボックスに記述をお願いします。

回答にアカウントは必要ありません。



第4回大会の方針について（テーマ設定、ルールの変更、事前オリエンテーション、審判の心得等）、お気づきの点があれば、お教えてください。

回答を入力

第4回大会当日の運営について（全体的な大会の流れなど）、お気づきの点があれば、お教えてください。

回答を入力

その他、今後の大会に向けてお気づきの点（良かった点や改善点）があれば、お教えてください。

回答を入力

送信

フォームをクリア

令和4年度省エネルギー促進に向けた広報事業
(次世代層向けの省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストの実施)

**第4回省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト
事業成果報告書**

東北経済産業局資源エネルギー環境部総合エネルギー広報室